

Ⅱ. 「SIH 道場～アクティブ・ラーニング 入門～」の取組

1. 平成 28 年度「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の実施

1) SIH 道場の概要

SIH 道場は、徳島大学の 1 年次学生全員が前期に受講する初年次教育科目であり、各学部・学科で設計したアクティブ・ラーニングの手法を導入した授業において、学生は (1) 専門分野の早期体験、(2) ラーニングスキルの習得、(3) 学習の振り返りを行う。教員は本授業の担当を通して、アクティブ・ラーニングの手法を学び、授業実践の省察を行う。平成 27 年度 SIH 道場においては、学部 1 年生 1414 名が受講し、236 名の教員が授業を担当した。

SIH 道場の授業設計は各学部・学科単位で行い、「授業設計コーディネーター」が責任を担う。授業設計コーディネーターは、(1) 専門分野の早期体験、(2) ラーニングスキル（文章力・プレゼンテーション力・協働力）の習得、(3) 学習の振り返りの SIH 道場の三つの必須要素を組み込んだ授業を設計する。

授業の概要

SIH道場

～アクティブ・ラーニング型初年次科目～

SIH道場とは、**徳島大学の1年次**全員が前期に受講する初年次教育科目で、**①専門分野の早期体験、②ラーニングスキルの習得、③学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につける**ことを主な目的としています。授業内容は、各学部の事情に合わせて授業を設計し、学部教員が授業を担当します。

キーワード：専門分野の早期体験、アクティブ・ラーニングスキルの獲得、eポートフォリオによる学習の振り返り

◆授業の設計手順

授業は、**各学部・学科の事情に合わせて、個別に設計**を行います。授業設計の責任者は、「授業設計コーディネーター」であり、その選出や当該学部の状況把握等は専門委員会委員が行います。また、授業設計においては、**総合教育センター教育改革推進部門教員とコンテンツ作成ワーキンググループ**のメンバーが、**設計のための支援**を行います。

授業内容は、各学部・学科の専門に即して個別に計画されますが、上記の目的を踏まえること、学生がアクティブ・ラーニング型授業を体験し、自らの学習経験を振り返ることを通じて、学習の計画や実施をしていくための能動的学習の基礎を身につけるような要素を盛り込みます。そのために、**下記の内容を必須項目として実施します。**

- ①**専門分野の早期体験**
→先端研究、現場体験、臨床体験、先輩からのメッセージ等
- ②**ラーニングスキルの習得（反転授業・グループワーク等の実施）**
→文章力・プレゼンテーション力・協働力
- ③**学習の振り返り（eポートフォリオによる省察）**
→学習内容の省察・記録、学生、教員間での共有等

※①～③をそれぞれが関連し、スキルの習得と体験が同じフィールドで習得できるように体系的に組み立てます。

◆授業のひな形（1つの例） ※より詳細なひな形は別紙

（1）導入：大学での学び・動機づけ

①先輩の声「テーマ：○○学科における大学での学びと○○技師」（講演or映像）
→その内容について、レポートとして文章にまとめる。
グループでコンテンツを作り、プレゼンテーションを行う。
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

（2）ラーニングスキル入門：学習を行う上で共通する基本技能の習得

①文章の書き方
→反転授業事前学習：レポートの書き方入門
→対面授業：（1）で作成したレポートについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、フラッシュアップ
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

②プレゼンテーションの仕方
→反転授業事前学習：効果的なプレゼンテーションの仕方
→対面授業：（1）で実施したプレゼンテーションについてについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、フラッシュアップ
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

③グループワーク（他者との協働）
→反転授業事前学習：アイデアの発想・収束（KJ法）
→対面授業：KJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

（3）早期体験：○○分野の先端研究・現場体験

①○○現場体験
→その内容について、レポートとして文章にまとめる。
グループでコンテンツを作り、プレゼンテーションを行う。
ルーブリックを用いたピア評価を行う。
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

2) SIH 道場の各アクターの役割

SIH 道場の実施にあたっては、大学教育再生加速プログラム（AP）実施専門委員会、各学部・学科の授業設計コーディネーター、各学部・学科の授業担当者、総合教育センター教育改革推進部門、SIH 道場コンテンツ作成ワーキンググループが、授業計画から準備、実施、振り返りまでの過程において、以下のようなそれぞれの役割を果たしている。

SIH道場 ～アクティブ・ラーニング型初年次科目～

	授業計画 10月～2月	準備 2月～3月	実施 4月～9月	振り返り 10月～12月
大学教育再生 加速プログラム 実施専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> ◆AP事業全体像の把握 ◆コーディネーターの選出 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の準備状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の実施状況の把握 (特に自学部) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り (全体運営) ◆シンポジウムの開催 ◆報告書の作成
授業設計 コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の授業概要の把握 ◆授業設計 (目的・目標・スケジュール・教材・評価等のシナプスの作成) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業担当者の選出 ◆SIH道場担当者FDに参加 ◆授業準備・スケジュール等の最終確認など、実施するために必要なことすべて 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業担当者の支援 ◆授業実施状況の把握 ◆自身の授業を振り返り、eポートフォリオを活用した省察 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り ◆自己評価シートの作成 (自部局) ◆シンポジウムでの報告
授業担当者		<ul style="list-style-type: none"> ◆授業準備・スケジュール等の最終確認など、授業を担当するために必要なことすべて ◆SIH道場担当者FDに参加 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業の実施 ◆学生のポートフォリオに対するコメント等のフィードバック ◆自身の授業を振り返り、eポートフォリオを活用した省察 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り (自クラス) ◆授業設計コーディネーターへの報告
総合教育センター 教育改革推進部門	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業設計の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆FD・説明会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆随時相談対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り (全体) ◆シンポジウムでの報告 ◆報告書の作成 (運営・支援)
コンテンツ作成WG	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業設計の支援 ◆反転授業コンテンツ、教材、ワークシート、eポートフォリオ、評価ツール等の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ◆反転授業コンテンツ、教材、ワークシート、eポートフォリオ、評価ツール等の作成 ◆担当者へ使い方の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ◆随時相談対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り (コンテンツ) ◆報告書の作成 (コンテンツ)

3) 授業設計コーディネーターの役割

各学部・学科の授業設計コーディネーターは、プログラム単位で授業設計を行い、目的・目標の設定、スケジュール、教材、評価方法の設定等を行うという中心的な役割を担う。その際には、「授業設計概要」、「授業設計詳細」をフォーマットに従い作成し提出する。加えて、授業担当者を選出し取りまとめを行いながら、連携して授業運営を行う。授業の実施後には学生アンケートを行い、教育改革推進部門による集計結果等を参考にしながら、「プログラム設計評価シート」のフォーマットに従い、実施したプログラムを振り返り自己評価を行い、課題を明確化し次年度の改善点を具体的に記述する。全プログラムの実施内容やその成果と課題については、SIH 道場の全てのプログラムが終了した 11 月頃に開催する「SIH 道場振り返りシンポジウム」において共有を行う。

4) 平成 28 年度の SIH 道場プログラム

平成 28 年度の SIH 道場については、①総合科学部（国際教養コース・心身健康コース・公共政策コース・地域創生コースの 4 コース合同）、②医学部医学科、③医学部医科栄養学科、④医学部保健学科看護学専攻、⑤医学部保健学科放射線技術科学専攻、⑥医学部保健学科検査技術科学専攻、⑦歯学部（歯学科・口腔保健学科の 2 学科合同）、⑧薬学部、⑨理工学部社会基盤デザインコース、⑩理工学部機械科学コース、⑪理工学部応用化学システムコース、⑫理工学部電気電子システムコース、⑬理工学部情報光システムコース、⑭理工学部応用理数コース、⑮生物資源産業学部（応用生命コース、食料科学コース、生物生産システムコースの 3 コース合同）の 15 プログラムが展開されると共に、⑯医療教育開発センターによる医・歯・薬学部合同の「チーム医療入門」ワークショップが実施された。このうち、各学部・学科・専攻・コースにおいて実施されたプログラムの SIH 道場必須項目の内容については、表のとおりである。

平成 28 年度 SIH 道場プログラムにおける必須項目一覧

学部	学科	①体験学習	②必須項目			③振り返り
			文章力	プレゼン力	協働力	
総合科学部	人間文化学科	大塚美術館見学	・読書レポートの作成	課題発見ゼミナールにおいて共同でプレゼン作成・実施		プロダクトへ教員がコメントし、学生が振り返りを行う
	社会創生学科		・体験学習レポートの作成			
	総合理数学科					
医学部	医学科	・診療現場体験 ・振り返りWS	振り返りWS終了後にレポート作成	振り返りWSでKJ法を用いて班単位でプレゼン・討議		学生が振り返りを行い教員がコメント
	医科栄養学科	先輩の講演の聴講 （「チーム医療入門」）	WS時にKJ法で出た意見をまとめる	作成したプロダクトに基づきプレゼン	班単位でWSを行いプロダクト作成	学生が学んだことを書き、教員がコメント
	保健学科（看護）	「先輩からのメッセージ」聴講	講義および書かせたもののピア評価	「先輩からのメッセージ」でのプレゼン	仕事に対する将来像についてKJ法ワーク	学生が振り返りを行い教員がコメント
	保健学科（放射）	先端研究の体験	体験学習のレポート作成	報告会でのプレゼン	短期研究室配属での協働作業	学生が振り返りを行い教員がコメント
	保健学科（検査）	「先輩からのメッセージ」聴講	レポートを書かせピア評価	「チーム医療入門」でのプレゼンのピア評価	「チーム医療入門」でのKJ法ワーク	学生が振り返りを行い教員がコメント
歯学部	歯学科	・「気づきの体験学習」 ・相互歯磨き学習	・「アカデミック・ライティング入門」聴講 ・読書レポート作成	グループでのプレゼン		学生が振り返りを行い教員がコメント
	口腔保健学科					
薬学部	薬学共通	先輩の講演（「チーム医療入門」）	・WS時にKJ法で出た意見をまとめる ・最終レポート作成	作成したプロダクトに基づきプレゼン	班単位でWSを行いプロダクト作成	学生が振り返りを行い教員がコメント
理工学部	社会基盤デザインコース	現場見学	レポートに対するコメントと学生による議論	体験学習に関するプレゼンと質疑応答	ポスター作成	学生が振り返りを行い教員がコメント
	機械科学コース	「機械科学実験Ⅰ」での技術体験	「集中研修」での書き方指導	「集中研修」で、グループ作業でディベートを準備・実施		学生が振り返りを行い教員がコメント
	応用化学システムコース	研修旅行	自分が興味のある科学技術について発表要旨を作成・発表			ルーブリックでの自己評価に教員がコメント
	電気電子システムコース	「STEM演習」における電気電子工学の演習	論理的文章の書き方についての講義	STEM演習におけるポスター発表	STEM演習におけるポスター発表	学生が振り返りを行い教員がコメント
	情報光システムコース	研究室見学	論理的文章の書き方についての講義	プレゼンテーションについての講義	専門分野のトピックについてのKJ法	学生が振り返りを行い教員がコメント
生物資源産業学部	応用生命コース 食料科学コース 生物生産システムコース	学外研修とレポート作成	「体験学習Ⅰ」のレポート作成・ピア評価	「体験学習Ⅱ」でのグループ製作を行い、プレゼン・ピア評価		学生が振り返りを行い教員がコメント
	医療教育開発センター	専門家の講演の聴講とグループワーク	ワークショップについての振り返りレポート	グループでの討議とプレゼンテーション		学生が振り返りを行い教員がコメント

資料①:平成28年度SIH道場必須項目設計表(概要のみ)

SIH道場必須項目設計表 (概要のみ)

総合科学部社会総合科学科

		内容		授業実施枠
	到達目標	事前学習	授業	
① 体験学習	<p>大塚美術館の作品を鑑賞し、事前に学んだデスタクリプションという方法により絵画の情報を客観的に記述することができる。</p>	<p>左記レポートをチェックする。指示に従って客観的な記述ができていないかなどについてコメントする。</p>	<p>美術史担当教員による絵画の基本的な見方などについての講義を聴講する。</p>	<p>SIH道場</p>
② 文章力	<p>1. 学術的文章の基本的なルールや方法を説明することができ、2. 読書レポートの作成とそれに対する教員のコメントや評価により、レポート(論理的文章)の書き方に関する自己の現状を認識する。</p>	<p>担当教員は、原則として自分が推薦した本を選んだ学生の読書レポートにコメントする。さらにルールブックに基づいて評価する。</p>	<p>1. 学術的文章の書き方についての講義を行う。2. 学生は推薦図書の中から一冊以上を選んで読書レポートを作成する。3. 提出された「読書レポート」に対して担当教員がコメントとルールブックによる評価を記入して返却する。</p>	<p>SIH道場(読書レポート) 総合科学入門講座</p>
③ プレゼンカ	<p>1. プレゼンテーションの基本的な方法を説明することができ、2. プレゼンテーションの資料作成と実践、他者による評価を通じて、自己の現状を認識する。</p>	<p>反転授業コンテンツを視聴する。あるいは、プレゼンテーションの方法に関する配布資料を読む、など。</p>	<p>担当教員は学生の事前学習の程度を確認し、必要に応じてプレゼンテーションの方法の要点を説明する。学生は一定範囲のテーマについてプレゼンテーションの資料を作成し、実践する。ルールブックを用いて評価する。</p>	<p>課題発見ゼミナール(1年後期)</p>
④ 協働カ	<p>1. 協働力養成の基本的な方法を知る。2. 実践とその評価を通じて、自己の現状を認識する。(上記のプレゼン力養成プログラムをグループでおこなう。すなわち、同一の授業で二つの力を養成する。)</p>	<p>グループワークに用いる手法に関する事前資料の内容を理解する。</p>	<p>学生は、グループごとにひとつのテーマを選び、共同でプレゼンテーションの資料を作成し、実践する。または、個々にそれをおこない、グループ内でルールブックによる相互評価をおこなう。</p>	<p>課題発見ゼミナール(1年後期)</p>
			<p>③ 学習の振り返り</p>	
			<p>mahara飛ぶノート「リフレクションシート」を用いて振り返りレポートを作成する。講義担当教員とコーチングし、必要に応じて文章表現などについてコメントをフィードバックする。</p>	
			<p>Moodleを用いて、提出した読書レポートに対する担当教員からのコメントを受け取る。その内容をふまえ、学術的な文章の書き方を振り返り、担当教員に対し再びコメントを伝える。</p>	
			<p>課題発見ゼミナールの最終授業において、成果の発表会やグループワークを通じ学習の振り返りを行う。教員はコメントをフィードバックする。</p>	

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

医学部医学科

		内容			授業実施枠		
		事前学習	授業	③学習の振り返り			
①	体験学習	到達目標 医師の役割・業務内容や必要とされる能力を理解し、それらと関連づけて大学における学習について説明することができる。	評価方法・基準 病院ルールについて試験を行う。リフレクシオンシートと振り返りレポートで評価する。	事前学習 身だしなみ、診療現場でのルール、個人情報保護、感染制御等に関する資料を予習する。	授業 1) カリキュラム、キャラクター形成、診療現場でのルール、プロフェッショナルリズム等に関する授業を受講（4月5, 7, 9, 13日, 5月13日）。 2) 診療現場体験（5月20日） 3) 振り返りワークショップ（5月27日）	③学習の振り返り ・ワークシオンシート形式で全体振り返りを行う。 ・リフレクシオンシートと振り返りレポートに学んだことを記入し、それに対する教員コメントおよび評価をeポートフォリオで確認する。 ・教員はコメントをフィードバックする。	授業実施枠 SIH道場 準備学習：4月5日 8:40-9:30, 4月7日13:00-15:30, 4月9日8:30-11:00 5月13日13:00-16:00 診療現場体験：5月20日 振り返りWS：5月27日13:00-16:00
	文章力	到達目標 自らの経験をもとにこれからの大学での学習について自分自身が考えたことを論理的に文章で表現することができる。	評価方法・基準 振り返りレポートをグループワークで評価する。	事前学習 文章力のビデオ教材（4つの観点） 「主張の根拠付け」・「構成の明快さ」・「文章表現の適切さ」・「出典表示など」の視聴	授業 ・振り返りワークショップ終了後およびチーム医療入門ワークショップ終了後に自分の意見をレポートとしてまとめ、提出する。	③学習の振り返り ・教員はコメントをフィードバックする。 ・レポートの評価結果と教員コメントをeポートフォリオで確認する。	授業実施枠 SIH道場 振り返りWS:5月27日13:00-17:00 チーム医療入門:9月30日13:00-17:00
②	プレゼンカ	到達目標 自分自身の考えを他者が理解できようように効果的にプレゼンテーションすることができる。	評価方法・基準 グループワークで評価する（班全体の評価とする）。	事前学習 プレゼンテーションのビデオ教材（3つの観点） 「内容の構成」・「姿勢」・「視覚資料」の視聴	授業 ・早期臨床体験実習振り返りワークショップ、ならびにチーム医療入門ワークショップで、それぞれのテーマについて、KJ法によって作成したプロダクトを各班が発表し討議を行う。	③学習の振り返り ・リフレクシオンシートや振り返りレポートに学んだことを記載する。 ・eポートフォリオで教員による評価を確認する。 ・教員はワークシオンの中でフィードバックする。	授業実施枠 SIH道場 振り返りWS:5月27日13:00-17:00 チーム医療入門:9月30日13:00-17:00
	協働カ	到達目標 他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	評価方法・基準 グループワークで評価する（班全体の評価とする）。	事前学習 協働力のビデオ教材（3つの観点） 「協働のためのルール」・「話し手と聞き手のスキル」・「アイデアの発想と収束」の視聴	授業 ・早期臨床体験実習振り返りワークショップ、ならびにチーム医療入門ワークショップで、それぞれのテーマについて、KJ法によって班単位でプロダクトを作成する。各班の発表と討議の際には追加発現等により発表者をサポートする。	③学習の振り返り ・リフレクシオンシートや振り返りレポートに学んだことを記載する。 ・eポートフォリオで教員による評価を確認する。 ・教員はワークシオンの中でフィードバックする。	授業実施枠 SIH道場 振り返りWS:5月27日13:00-17:00 チーム医療入門:9月30日13:00-17:00

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

医学部医科栄養学科

		内容		授業実施枠		
	到達目標	評価方法・基準	事前学習		授業	③学習の振り返り
①	体験学習 早期体験学習として医科栄養学科の研究室を訪問し、研究室の見学や先生・先輩の話の話を聞く。SIH道場（チーム医療入門WS）における講演を聴講しワークショップに参加する。以上を通じて、医科栄養学科における各自の学習目標を考えることができるようになる。	リフレクションシートと振り返りレポートで評価する。	研究室のHPなどに関する資料を閲覧する。WSテーマに関する資料を閲覧する。	研究室の訪問、先生や先輩の話の話を聞く。チーム医療入門WSの講演の聴講ならびにWSに参加する。	eポートフォリオに学んだことを記入する。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場「チーム医療入門WS」平成28年9月30日13:00-14:20
	文章力	レポートおよびeポートフォリオ（振り返りレポート）で評価する。	文章力のビデオ教材（4つの観点）「主張の根拠付け」・「構成の明快さ」・「文章表現の適切さ」・「出典表示など」の視聴。	WS終了後に今回のテーマについて自分の意見をレポートとしてまとめ、eポートフォリオに記録する。	eポートフォリオに学んだことを記入する。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場「チーム医療入門WS」平成28年9月30日14:30-17:00
②	プレゼンカ 効果的なプロダクトのプレゼンテーションを行うためにツールを用いて説明することができ、また、他の班のプレゼンテーションを聞いて討議に参加することができる。	グループワーク評価表を用いる（班全体の評価とする）。	プレゼンテーションのビデオ教材（3つの観点）「内容の構成」・「姿勢」・「視覚資料」の視聴。	3～4班合同でプロダクトをもちに各班の発表と討議を行う。	eポートフォリオに学んだことを記入する。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場「チーム医療入門WS」平成28年9月30日14:30-17:00
	協働カ WSを能動的に進めることができる。WSに積極的に参加することができる。他学部・学科の学生とコミュニケーションを取ることができ、また協力してプロダクトを作成することができる。	グループワーク評価表を用いる（班全体の評価とする）。	KJ法のビデオを視聴する。	講演内容を参考にしてWSのテーマについて班単位でWSを行い、プロダクトを作成する。	eポートフォリオに学んだことを記入する。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場「チーム医療入門WS」平成28年9月30日14:30-17:00

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

医学部保健学科看護学専攻

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	看護学の分野で活躍する看護職の活動の現場を知るとともに、大学における学習方法について学び、専門職への意欲を持つことが出来る	レポートの提出	反転授業コンテンツ「SIH道場とは」の視聴	<ul style="list-style-type: none"> 「大学での学び（論文の書き方・プレゼンテーション）」の講義を行う。 「先輩からのメッセージ」として、現場で活躍している看護師・保健師・助産師・養護教諭および大学院生をゲスト・チャーター生に招き、新生入生に対して講演及びディスカッションを行う。 	保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施
文章力	大学におけるレポート作成の方法を知るとともに、論理的な文章を構成することができる	提出物は、ループリットクを用いて行う	反転授業コンテンツ「レポートの書き方入門」の視聴	<ul style="list-style-type: none"> レポートの書き方についての講義を行う。 ループリットクを用いたピア評価を行う。 	保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施
② プレゼンカ	見るものによってわかりやすく説明力のあるプレゼンテーションの評価ができる	プレゼンテーションに対する学生間の相互評価	反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴	<ul style="list-style-type: none"> グループごとにテーマを設定し、コンテンツ、テクニク、ツールの3要素を活用したプレゼンテーションを実施する。また、学生同士が相互に評価を行う。 	保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施
協働力	他者と共同して1つの課題に取り組みることができる	e-ポートフォリオ内容の中で、他者と共同した成果を1つ以上説明している。	反転授業コンテンツ「チーム作業の基本」の視聴	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことをe-ポートフォリオに記入する。教員はコメントをフィードバックする。 学んだことをe-ポートフォリオに記入する。教員はコメントをフィードバックする。 	保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

医学部保健学科放射線技術科学専攻

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	専門分野における先端研究を体験し、研究内容を大学における学習と関連させて説明することができる	体験学習の報告会でのプレゼンテーションを教員が評価する	研究室で実施している先端研究の内容を調査しておく	研究室（または教員グループ）に複数の学生を短期間研究室配属させて体験学習を行うための発表会を実施する	担当教員の指定する時間帯に実施する
文章力	論理的な文章を作成する際に注意すべきことを一つ以上説明することができる	体験学習の内容をまとめたレポートを提出させ、教員が評価する	反転授業コンテンツの書き方「レポートの視聴入門」の視聴	短期研究室体験における指導を通して文章力向上を図る	SIH道場の授業枠内で実施
② プレゼン力	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な技法を一つ以上説明することができる	報告会でのプレゼンテーションを教員が評価する	反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴	短期研究室体験における指導を通してプレゼンテーション能力向上を図る	SIH道場の授業枠内で実施
協働力	他者と協働して一つの課題に取り組みることができる	・体験学習期間中の学習状況を配属先の教員が評価する ・チーム医療入門ワークショップの取り組みに対する評価も加える（評価方法は別途）	反転授業コンテンツ「アイデアの発想・収束（KJ法）」の視聴	短期研究室配属で協働作業を体験させ、課題解決のための協働力の重要性を認識させる	SIH道場のおよびチーム医療入門（IPE）ワークショップで実施
				③学習の振り返り 学んだことをe-ポートフォリオに記入、教員はコメントをフィードバックする	

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③学習の振り返り	
① 体験学習	臨床検査分野における先端研究（現場）と大学における学習について、関連させて説明することができるとができる。	レポート提出	<ul style="list-style-type: none"> ・ SIH道場の理解。 ・ 「先輩からのメッセージ」に関する発表内容の紹介。 ・ 「大学院のすすめ」：HPなどで各分野の研究内容を調査しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SIH道場の目的・実施の流れとその対応、レポートの書き方、ルーブリックについての説明。 ・ 「先輩からのメッセージ」を聞き、様々な臨床検査の分野を知り、自分の進路について考える。 ・ 「大学院のすすめ」において担当教員から大学院の研究概要を聞き、大学院を知り、将来の進路を考える。 	考えたことについてレポート提出。教員はコメントをフィードバックする。	保健学科「SIH道場」内で実施
文章力	論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業ビデオコンテンツ「文章力」の動画を視聴	「先輩からのメッセージ」で作成したレポートについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	保健学科「SIH道場」内で実施
② プレゼンカ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業ビデオコンテンツ「プレゼン力」の動画を視聴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「保健学科新入生研修 ワークショップ」で実施したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いた相互評価を行う。 ・ 「チーム医療入門」で実施したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ 	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	保健学科「SIH道場」内で実施
協働力	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業ビデオコンテンツ「協働力」の動画を視聴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「保健学科新入生研修 ワークショップ」にてKJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。 ・ 「チーム医療入門」にてKJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。 	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	保健学科「SIH道場」内で実施

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

歯学部

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠	
			事前学習	授業		
① 体験学習	<ul style="list-style-type: none"> ① 基本的マナーを守ることができ ② コミュニケーション力を養うことができる ③ ホスピタリティ・マインドをもって対応することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での取り組み姿勢を評価する ・ 作成されたレポートを評価する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 術者歯磨きを行う際に当たり必要な事項をキーマンとして考える ・ 身だしなみ、診療現場でのルール、個人情報取り扱い、感染制御について予習する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「気づきの体験実習」では各ワークで学んだことを参加者間で話し合う ・ 「相互歯磨き学習」ではパートナーと相互の術者磨きを行い、学んだことを話し合う 	<p>③ 学習の振り返り</p> <p>「気づきの体験実習」・「相互歯磨き学習」にて学んだことを文章にまとめ、e-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>1年次前期：SIH道場「気づきの体験学習」・「相互歯磨き学習」の中で実施</p>
② 文章力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出された「読書レポート」を評価する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「アカデミック・ライティング入門」では、担当教員は学生から提出された事前レポートに対するフィードバックを行う。学生は重要ポイントを確認し、自身のレポートを授業中に校正し、「読書レポート」の書き方を学ぶ ・ 学生は課題図書「読書レポート」を提出する ・ 提出された「読書レポート」に対して教員がコメントを記載して返却する ・ 学生はコメントを確認、自己評価内容を再度提出する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「読書レポート」の書式に従って記載して提出。教員はコメントをフィードバックする 	<p>「読書レポート」の書式に従って記載して提出。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>SIH道場「アカデミック・ライティング入門」「読書レポート」関連授業において実施</p>
プレゼン力	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで討議し、内容について整理してプレゼンテーションすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルーブリック評価表を用いる（班全体の評価とする） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反転授業コンテンツ「プレゼンテーション力」を視聴する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループでコンテンツを作り、プレゼンテーションを行う 	<p>学んだことはレポートに記入。教員はプレゼンテーションに対するフィードバックを行う。</p>	<p>1年次後期：早期臨床実習の中で実施</p>
協働力	<ul style="list-style-type: none"> ・ WSを能動的に進めることができる ・ WSに積極的に参加することができる ・ 他学部学生とコミュニケーションが取ることができる ・ 他学部学生と協力してプロダクトを作成することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルーブリック評価表を用いる（班全体の評価とする） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループワークに用いている手法に関する事前資料の内容を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「新入生研修」では、歯科医療従事者としての心構えなどの課題について「コンセンサスゲーム」や「ワールドカフェ」などによるワークを実施する 	<p>学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>1年次前期：SIH道場「新入生研修」の中で実施</p>
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演内容を参考にしてWSのテーマについて班単位でWSを行い、プロダクトを作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ e-ポートフォリオに学んだことを記入する 	<p>大学入門講座「チーム医療入門」平成27年9月30日14:30-17:00</p>	

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

薬学部

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③ 学習の振り返り	
① 体験学習	<p>早期体験学習として講演等を聴講し、自分の将来の進路や方向性を、大学における学習と関連させて説明することができる。</p>	<p>全講演の出席と受講態度を評価する。</p>	<p>・反転授業コンテンツ「SIH道場とは」を視聴する。 ・「チーム医療入門」WSテーマに関する資料を閲覧する。</p>	<p>SIH道場 ・講演「薬局で働く」 ・講演「薬害について」 ・「薬学の祖を学ぶ～ころざし～」 チーム医療入門</p>	<p>学んだことをチーム医療入門でのプロダクト作成に反映させる。 e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。</p>	<p>SIH道場、チーム医療入門の中で実施</p>
文章力	<p>自分自身の考えを論理的に表現することができる。</p>	<p>ルーブリック評価表を用いる。</p>	<p>文章力の反転授業コンテンツを視聴する。</p>	<p>チーム医療入門 ・学んだこと、今後の学習に関する目標についてレポートを作成する。</p>	<p>学んだことをレポートで提出する。 e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。</p>	<p>チーム医療入門の中で実施</p>
② プレゼンカ	<p>効果的なプレゼンテーションを行うためのツールを用いて説明することができる。 他の班のプレゼンテーションを聞いて討議に参加することができる。</p>	<p>ルーブリック評価表を用いる。</p>	<p>プレゼンカの反転授業コンテンツを視聴する。</p>	<p>チーム医療入門 ・プロダクトをもとに各班の発表と討議を行なう。</p>	<p>リフレクションシートに学んだことを記載する。 e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。</p>	<p>チーム医療入門の中で実施</p>
協働力	<p>WSを能動的に進めることができる。 WSに積極的に参加することができる。 他学部学生とコミュニケーションを取ることができる。 他学部学生と協働してプロダクトを作成することができる。</p>	<p>ルーブリック評価表を用いる。</p>	<p>協働力の反転授業コンテンツを視聴する。</p>	<p>チーム医療入門 ・講演内容を参考にしてWSテーマについて班単位でWSを行い、プロダクトを作成する。</p>	<p>リフレクションシートに学んだことを記載する。 e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。</p>	<p>チーム医療入門の中で実施</p>

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	社会基盤に関する興味関心を喚起し、学習・研究に対する動機づけを行う。	<ul style="list-style-type: none"> レポートの作成の提出 	<p>現場見学のキーワードを調べる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各分野の概要の説明 現場見学 	SIH道場の授業 枠内で実施
文章力	レポートを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 提出物をループバックを用いて評価する。 	<p>反転授業ビデオコンテンツ「文章力」の4つの動画を視聴</p>	<ul style="list-style-type: none"> SIH道場を通じて経験したことをレポートで作成。 レポートについて、ループバックを用いた評価 	SIH道場の授業 枠内で実施
② プレゼンカ	効果的なプレゼンテーションを行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションをループバック評価する。 	<p>反転授業ビデオコンテンツ「プレゼンテーション力」の3つの動画を視聴</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループで現場見学の内容をまとめたコンテンツについて、プレゼンテーションならびに教員との質疑を行う。 プレゼンテーションについて、ループバックを用いた評価 	SIH道場の授業 枠内で実施
協働カ	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。		<p>反転授業ビデオコンテンツ「協働カ」の3つの動画を視聴</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループで現場見学について意見交換し、ポスター作成を行う。 	SIH道場の授業 枠内で実施
				<p>③ 学習の振り返り</p>	
				<p>直接的な振り返りはないが、ポスター資料を作成することが振り返りとなる。</p>	
				<p>教員は提出されたレポートに対してコメントを付記し、学生へ返却することとでフィードバックする。</p>	
				<p>レポートにて学んだ内容を記述することで間接的に振り返る。</p>	
				<p>レポートにて学んだ内容を記述することで間接的に振り返る。</p>	

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

理工学部理工学科機械科学コース

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠	
			事前学習	授業		
① 体験学習	<p>1. 社会生活の中で機械工学が果たしている役割の一端を理解する。</p> <p>2. もの作りの基本を理解する。</p> <p>3. プレゼンテーションの方法を修得する。</p>	<p>実習への取り組み態度を30点、レポートの提出状況と内容を70点して評価する。</p>	<p>実習手順書を事前に確認し、内容を理解してから実習に臨むように指導する。</p>	<p>安全についての考え方をまず取り上げ、工作機械類を使用したもの作り、データーの分解・組立・運転を実習するとともに、性能試験や材料試験を行い、これから学ぶ機械工学・技術の具現方法の一端を体験する。</p>	<p>機械工学科専門科目「機械科学実験1」の中で実施</p>	
② 文章力	<p>自らが果たした役割、反省点などを客観的に振り返る文章を書くことができる。</p>	<p>レポートの文章を評価する。</p>		<p>合宿研修時に論理的な文章の書き方に関する指導を行う。</p>	<p>SIH道場「集中研修」の枠内で実施</p>	
② プレゼンカ	<p>自らの主張を論理的に分かりやすく相手に伝えることができ</p>	<p>レポートでの発表技術を評価する。</p>		<p>大学での事前説明時にデーターの方法や効果的なプレゼン法について指導を行う。</p>	<p>SIH道場「集中研修」の枠内で実施</p>	
② 協働力	<p>同じグループの学生と協働して準備作業を行うことができる。</p>	<p>レポートの記述内容及び実際のデーター準備作業を評価する。</p>	<p>大学での事前説明時にグループ内の役割を決めさせ、資料収集等の事前準備を行わせる。</p>	<p>集中研修時にグループ作業を行わせ、立論・反論の組み立てを共同で行わせる。</p>	<p>SIH道場「集中研修」の枠内で実施</p>	
				<p>③ 学習の振り返り</p> <p>当日の実習内容を確認し、注意が必要だった点や手順の意味などの振り返りをレポートに記載させる。</p>	<p>集中研修を振り返ってレポートを作成する。</p>	<p>SIH道場「集中研修」の枠内で実施</p>

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

理工学部理工学科応用化学システムコース

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	話題となっていて重要な科学技術あるいは社会的に重要な技術などについて理解し，大学での学習内容との関連を説明できる。	出席状況，参加した教員との対話ができていること。	高校卒業までの経験	研究者である大学教員の研究を知る，各自の興味ある科学技術が，大学での学習内容とどのようなように関連するかを調査する。	SIH道場 (研修旅行)
文章力	大学4年間で取り組みたいことを文章で表現できる。	論理的，科学的な思考力で書けていること。	moodle上の自習ビデオを閲覧する，テキスト「アングテイブ」のラーニング入門」の記載内容を理解する。	各自の興味ある科学技術を論理的かつ科学的に整合性のある文章で表現する。	SIH道場
② プレゼンカ	クラスメートの前で自己紹介で語る。	誠実に分かりやすく説明できていること。	moodle上の自習ビデオを閲覧する，テキスト「アングテイブ」のラーニング入門」の記載内容を理解する。	自己紹介を行う，その際，各自の興味ある科学技術を，各頭で論理立てて説明する。	SIH道場
協働力	研修旅行にて協働で清掃活動など活動を行うことができる。	グループメンバーを思いやり，活動に対して積極的な貢献ができていること。	moodle上の自習ビデオを閲覧する，テキスト「アングテイブ」のラーニング入門」の記載内容を理解する。	研修旅行にて清掃活動や地引き網などを行う，積極性を持って活動に参加する。	SIH道場 (研修旅行)
				③ 学習の振り返り ルーブリック評価表で自己評価する，自己評価に対して教員がコメントを記入する。	

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

理工学部理工学科電気電子システムコース

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	自身の専門分野における先端研究（現場）と大学における学習について、関連させて説明することができる。	レポートの提出 ・プレゼンテーション ・コンテントの提出		STEM演習において電気電子工学の演習を行う	STEMの授業 枠内で実施
文章力	論理的な文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。	提出物をルーブリック評価表に基づき評価	反転授業コンテントの視聴・クイズの解答	レポートの書き方についての説明を行う	SIH道場の授業 枠内で実施
② プレゼンカ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。	提出物をルーブリック評価表に基づき評価	反転授業コンテントの視聴・クイズの解答	STEM演習で実施したテーマについて5人程度の班に分かれてポスター形式でプレゼンテーションを行う	SIH道場の授業 枠内で実施
協働カ	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる	提出物をルーブリック評価表に基づき評価	反転授業コンテントの視聴・クイズの解答	STEM演習で実施したテーマについて5人程度の班に分かれてポスター形式でプレゼンテーションを行う	SIH道場の授業 枠内で実施
				③ 学習の振り返り 学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

理工学部理工学科情報光システムコース

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	情報光システムにおいて取り組んでいる最先端の研究内容について説明出来る。	出席状況とレポートの内容により評価する	情報系，光系での先端研究について調査しておく	コース内の研究室を見学し，研究紹介を聴講する。また，ものづくり体験をする	「情報光システムセミナー」の中で実施
文章力	論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる。	反転授業ビデオコンテンツ「文章力」の動画を視聴	レポートの書き方についての講義を行う。ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認	SIH道場の授業 枠内で実施
② プレゼンカ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツールについて説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる。	反転授業ビデオコンテンツ「プレゼンテーション力」の動画を視聴	プレゼンテーションスキルについての講義を行う。ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認	SIH道場の授業 枠内で実施
協働カ	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	ルーブリック評価表を用いて評価する。	反転授業ビデオコンテンツ「協働カ」の3つの動画を視聴	専門分野のトピックスについてKJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。	SIH道場の授業 枠内で実施
				③ 学習の振り返り	
					学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。
					学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。
					学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

理工学部理工学科応用理数コース

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③学習の振り返り	
① 体験学習	自分の専門分野における先端研究（現場）を体験し、大学における学習と関連させて説明することができる。	体験学習の報告会でのプレゼンテーションを教員が評価する。	研究室訪問する以前に、その分野について調べてみる。	応用理数コース教員の研究室を訪問する際の手順やマネー等を指導を行う。	学んだことをポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業実施枠内で実施
文章力	論理的文章の作成する際に注意すべきことを一つ以上説明することができる。	研究室訪問で得た知識等をまとめたレポートを作成させ、教員が評価する。	反転授業コンテンツの4つの動画を視聴する。	論理的な文章の書き方に関する指導を行う。	学んだことをポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業実施枠内で実施
② プレゼンカ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を一つ以上説明することができる。	報告会でのプレゼンテーションを教員が評価する	反転授業コンテンツ「プレゼンテーション力」の3つの動画を視聴する。	プレゼンテーションを行うにあたっての注意点を指導する。	学んだことをポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業実施枠内で実施
協働力	他者と協同して一つの課題に取り組むことができる。	報告会のための資料作成および報告会でのプレゼンテーションを通してグループ活動について教員が評価する。	反転授業ビデオコンテンツ「協働力」の3つの動画を視聴する。	グループで話し合いを行う際の注意点を指導する。	学んだことをポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業実施枠内で実施

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

生物資源産業学部生物資源産業学科

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	自身の専門分野に関連した社会現場と大学における学習について、関連させて説明することができる。	作成レポートの提出	学外研修で体験した社会現場についてインタビューを利用して自主的に調べ	1. 学外研修→研修した内容について調査し、レポートと 2. 学外研修→研修した内容についてプレゼンテーションとKJ法ワークを行う。	SIH道場の授業 枠内で実施
文章力	論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。	提出物にルーブリック評価表を用いる	反転授業コンテンツ「レポートの書き方入門」の視聴	体験学習1の内容に対して作成したレポートについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ	SIH道場の授業 枠内で実施
② プレゼン力	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴	体験学習2の内容に対して作成したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ	SIH道場の授業 枠内で実施
協働力	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業コンテンツ「アイデアの発想・収束（KJ法）」の視聴	体験学習2の内容に対してKJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。	SIH道場の授業 枠内で実施

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

医歯薬学研究部医療教育開発センター

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③学習の振り返り	
① 体験学習	医療現場で活躍している専門家の講演の聴講やグループワークを通して自分自身を振り返り、今後の自分の学習のあり方について説明することができる。	他学部・学科学生との合同ワークショップでのグループワークの状況や振り返りレポートで評価する。	ワークショップテーマに関する資料を閲覧する。	ワークショップのテーマに沿った専門家の講演を聴講し、その次に他学部・学科学生と合同でグループワークを行い、テーマに沿ったプロダクトを作成する。	リフレクシヨンをレポート、振り返りレポートに学んだことを記入する。 ・教員は振り返りレポートを評価し、コメントをフィードバックする。	SIH道場「チーム医療入門」平成28年9月30日 13:00-17:00
文章力	今後の自分の学習のあり方について文章にまとめができる。	振り返りレポートで評価する。	反転授業ビデオコンテンツ「文章力」の4つの動画を視聴。	ワークショップ終了後に今回のテーマについて自分の意見を振り返りレポートとしてまとめ、提出する。	・教員は振り返りレポートを評価し、コメントをフィードバックする。	SIH道場「チーム医療入門」平成28年9月30日 13:00-17:00
② プレゼンカ	グループで討議した結果を他のグループにプレゼンテーションができる。	ループリリック評価表を用いる（班全体の評価とする）。	反転授業ビデオコンテンツ「プレゼンテーション力」の3つの動画を視聴	3～4班合同でプロダクトをもとに各班の発表と討議を行う。	・リフレクシヨンを作成する。 ・教員からのループリリック評価結果をeレポートフォローオで確認する。	SIH道場「チーム医療入門」平成28年9月30日 13:00-17:00
協働力	他者と協力して、テーマについて討議（意見交換）し、プロダクトを作成できる。	ループリリック評価表を用いる（班全体の評価とする）。	反転授業ビデオコンテンツ「協働力」の3つの動画やKJ法の動画を視聴する。	・班単位でKJ法を用いてワークショップテーマについてのプロダクトを作成する。	・リフレクシヨンを作成する。 ・教員からのループリリック評価結果をeレポートフォローオで確認する。	SIH道場「チーム医療入門」平成28年9月30日 13:00-17:00

平成 28 年度 SIH 道場 総合科学部 授業詳細

●SIH 道場 (体験学習)

■目的

西洋絵画の見方についての講義を聴いた上で大塚国際美術館を訪問し、事前に学んだ「デスクリプション」の方法によりひとつの作品を文章により記述する。この美術館は西洋の名画の模写を多数展示しているが、精確な写真撮影をもとに制作した実物大の陶板が使用されている点にユニークな特徴がある。展示方法にも独自の工夫があつて、絵画を含む教会堂の内部空間が再現されており、非常に優れた文化施設と言える。学生は、この美術館で数多くの作品を鑑賞することで、美的感性を触発されるだけでなく、専門家による事前指導を通じ、芸術とその背景をなす歴史や文学、宗教など文化的諸要素との総合的関連性を知るきっかけを得る。また、デスクリプションの方法は主観的解釈や予備知識を排し客観的態度で対象に向かい、視覚的イメージを文章化することを目指すもので、学生は客観的な観察と正確な記述という汎用技能を学ぶことになる。

■到達目標

大塚美術館の作品を鑑賞し、事前に学んだ方法によりそれを客観的に記述することができる。

■授業内容

4月7日(木)

9:00~9:45 西洋絵画の見方についての講義(担当:田中佳)

絵画の鑑賞と理解のひとつの方法として、絵についての文章による客観的記述(デスクリプション)の仕方を紹介

資料や記入用紙を配布

10:00~12:30 他の講義・移動・昼食

12:30~17:30 大塚国際美術館見学

大塚国際美術館を訪れ、絵画を鑑賞し、文章による記述を行う。

4月7日帰りのバスで、作成した文章を提出する。

■成績評価

学生が作成した文章を学生委員及び教務委員が確認し、指示したデスクリプションの方法に従っているかなどをチェックし、フィードバックを行う。

●SIH 道場 (文章力)

■目的

「文章力養成」に関して、(授業名としての)「SIH 道場」と「総合科学入門講座」において、レポートの書き方やメディア・リテラシーに関する講義をおこなった後に、「総合科学入門講座」(オムニバス授業、8回)において授業内容に関するレポートをほぼ毎回、またそれと並行して「読書レポート」を課す。「総合科学入門講座」関連のレポートについては講義を担当した教員が点数評価を、「読書レポート」

1. 総合科学部

については担当教員によるコメントやルーブリックによる評価をおこなう。その目的は以下の4点にある。

- (1) 学生の読書離れが指摘されるなか、本を手にしたり図書館を利用したりするきっかけを与える。
- (2) 大学で必要とされるレポートや論理的な文章の書き方について概略を理解させる。
- (3) レポート課題に取り組むことで、学生に自己の能力や課題を認識させる。
- (4) 学生のレポートを添削指導する教員が、今後継続的におこなうべきアカデミック・ライティングの指導の参考にする。

■到達目標

1. 学術的文章の基本的なルールや方法を習得することができる。
2. 大学のレポート、あるいは論理的な文章の書き方という点での自己の現状を認識することができる。

■授業内容

4月5日(火):「SIH道場」3-1「読書レポートについて」

井戸教員から読書レポート企画の概要を説明する。このとき学生に、推薦図書リストやルーブリックを渡す。

4月15日(金):「SIH道場」8「学術的発想と書き方」

山口裕之教員がレポートの書き方とメディア・リテラシーに関する講義をおこなう。また、これ以降も金曜日に実施される「総合科学入門講座」の中で継続的に山口教員による関連講義や、他の数名の教員によるレポート課題の出題と提出されたレポートの評価をおこなう。

また、これと並行して、学生は、51冊の推薦図書の中から一冊を選び、みずからテーマを決めて「読書レポート」をワードファイル(A4で2,3枚)で作成し、6月3日の締め切りまでに学内システムのMoodleムードルにて提出する。

6月3日(金)（「読書レポート」提出期限）

提出されたレポートは、原則として推薦図書を選んだ教員によって、ルーブリックとコメントにより評価され、学生に返却される。教員はほぼコースの所属にしたがって4つのグループに分けられ、一部のコメント教員にレポートが集中する場合には、同じグループの中で負担調整をおこなう。

7月1日(金)（コメントとルーブリックによる評価の提出期限）

この日までに、コメント担当教員は、提出されたレポートへのコメントとルーブリックによる評価を、ムードルを通して学生に送付する。その後、学生は「振り返りシート」の第四項目に、教員の評価についてのメッセージを記入する。この「振り返りシート」を、コメント担当教員に渡し、教員側からの回答がある場合にはそれを記入し、それがない場合にはそのまま、ムードルにアップする（以上8月前半に終了の予定）。

■成績評価

「総合科学入門講座」関連の複数のレポート課題については、担当教員が個々に点数評価をおこなったものを積算して評価する。「読書レポート」については、コメントとルーブリックを用いて評価するが、点数化はしない。

●課題発見ゼミナール（プレゼンテーション力・協働力）

■目的

初年次向け後期開講の「課題発見ゼミナール」（受講者定員 15 名、12 クラス）において、主としてプレゼンテーション力と協働力の養成に関し以下の到達目標をめざす。この授業は必修であり、学生が各クラスのシラバスを読んだ上で出す希望調査にもとづいて所属クラスが決定される。各クラスの扱うテーマや具体的な内容は、担当教員の裁量により設計されるため、文章力養成、体験学習なども取り入れる場合がある。

■授業内容

プレゼンテーション力と協働力の養成については、すべてのクラスで、少なくとも授業の一部は以下のような要素を含むこととする。学生は、授業の前に反転授業のためのビデオ、または担当教員が作成あるいは採用した教材などを用いて先行的自習をおこなう。また、それぞれのクラスのテーマ・課題の範囲内でグループ・ワーク（ディスカッション・調査・発表内容の作成など）をおこない、その結果を発表する。グループ・ワークとプレゼンテーションを別々の課題設定でおこなうこともできる。以上のプロセスの中で、ルーブリック表を用いて学生が相互評価をおこない、担当教員は全体的なチェックをおこなう。

■到達目標

1. 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。
2. 他者と協同して課題に取り組むことができる。
3. 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■各担当教員のクラスで扱われるテーマ・課題の範囲

内藤直樹：限界集落に会社を作ろう！

行實鉄平：徳島ヴォルティスの運営体験活動

吉田敦也：地域の未来設計、社会イノベーションの基礎的事項を実践体験的に学ぶ

葭森健介：徳島新発見

佐藤 裕：視聴覚障がい・言語障がいに関する社会的課題の解決

三浦 哉：自分の身体を知ろう！人の身体を測ろう！

山口裕之&熊坂元大：文化摩擦にどう対応すべきか

衣川 仁：歴史学研究入門

上原克之：基本的人権に関する裁判例の検討

眞弓浩三：統計的データの解釈確率論に基づく考察

趙 彤：社会科学的思考方法の習得

■成績評価

ルーブリック評価表等を用いる。

平成 28 年度 SIH 道場 医学部医学科 授業詳細

(教員版実施要項)

作成：医学部教育支援センター

1. 概要

オリエンテーションと連携した準備学習、診療現場体験、振り返りワークショップの3つで構成される早期臨床体験実習、ならびに蔵本地区1年次合同チーム医療入門ワークショップを行うことによって、学修の動機付けをはかりながら、医療チームの一員としての医師の役割・業務内容、必要とされる能力、およびそれらと関連づけた大学における学習の方法について学生が理解し、今後の学修に活かしていくことを目指す。ワークショップでは協働力およびプレゼンテーション力の向上、振り返りレポート作成では文章力の向上をはかり、これら一連の学習によって学修振り返りの方法を学ぶ。本科目は大学教育再生加速プログラムとして実施する。

2. 到達目標 (アウトカム)

- 1) 医師の役割・業務内容、必要とされる能力について説明することができる。
- 2) 医学科における学修目標について説明することができる。
- 3) 大学での学修および生活におけるルールを理解し、それを遵守することができる。
- 4) グループで協働して意見をまとめ、それをプレゼンテーションすることができる。
- 5) 自らの学修経験に基づいて、自分の考えを文章にまとめることができる。
- 6) 学修経験に基づいて振り返りを行い、今後の学修計画を立てることができる。

3. 対象者 医学部医学科1年次114名

4. 授業担当

- 1) 早期臨床体験実習準備学習のうち、4月5日、7日、9日の内容は、新入生オリエンテーションや医学部合同新入生研修と連携しながら、医学部教育支援センター教員および医学科教務委員が主に担当する。5月13日は医学部教育支援センター教員が実施する。
- 2) 早期臨床体験実習の診療現場体験は、臨床実習担当分野と卒後臨床研修センターが分担して担当する。実施にあたっては、各担当分野において実務担当者、診療現場体験担当者、振り返りレポート評価担当者を決め、実務担当者が医学部教育支援センターと相談しながら、企画・実施をコーディネートする。

*** 下記「7. 早期臨床体験実習実施にあたり各分野の担当教員が行うこと」を参照**

- 3) 早期臨床体験実習振り返りワークショップは医学部教育支援センターが企画し、そのチューターは主に医学部教育支援センター、医療教育開発センター、医療基盤教育分野の教員が担当する。
- 4) チーム医療入門ワークショップ（蔵本地区1年次合同）は医療教育開発センターが企画し、そのチューターは、あらかじめ医学部教務委員会・教授会で決定している担当順番に従って

2. 医学科

各分野から担当者を出す。チーム医療入門振り返りレポートの評価は、教務委員が分担して実施する。

5. 授業実施予定

日時	内容	担当
4月5日(火) 8:40～9:30	【早期臨床体験実習】準備学習 (新入生オリエンテーションと合同実施) 医学科教育課程(6年間)の概略、教養教育と専門教育との関わり、単位認定、担任制、不法行為・不正行為とは	医学部教務委員長
4月7日(木) 13:00～15:30	【早期臨床体験実習】準備学習 (新入生オリエンテーションと合同実施) 医師としてのキャリア形成 学生証, 出席管理システム, 学内LAN等	勢井教授、赤池教授 三笠准教授
4月9日(土) 8:30～11:00	【早期臨床体験実習】準備学習 (医学部合同新入生研修の一部として実施) 学生相談室と学生生活 違法薬物 アルコール、感染対策・病院での行動規範 禁煙	保健管理センター 西村明儒教授 赤池医療教育開発センター長 保健学科
5月13日(金) 13:00～16:00	【早期臨床体験実習】準備学習 双方向性授業「医療プロフェッショナルリズム」 試験&オリエンテーション	医学部教育支援センター
5月20日(金) 13:00～17:00	【早期臨床体験実習】診療現場体験 (各班5～6名に分かれて実施)	臨床系分野(臨床実習担当分野、卒後臨床研修センター)
5月27日(金) 13:00～16:00	【早期臨床体験実習】振り返りワークショップ	医学部教育支援センター (協力: 医療教育開発センター、医療系基盤教育分野)
9月30日(金) 13:00～17:00	チーム医療入門ワークショップ (蔵本地区1年次合同)	医療教育開発センター(各分野教員がチューター担当)

6. 評価・フィードバック方法: 下記5つすべて合格することを必要とする。

- 1) 診療現場体験における基本的ルールについてマークシート方式の試験を実施する。
合格基準: 正答率80%以上
- 2) 診療現場体験の終了後に学生が「リフレクションシート」を提出し、各分野の診療現場体験担当教員がそれにフィードバックコメントを記載して学生に返却する。
合格基準: フィードバックコメントで合格と判定(修正再提出を指示されていない)。

2. 医学科

- 3) 早期臨床体験実習振り返りワークショップでは、ワークショップ担当教員が、協働力、プレゼンテーションについて、所定のルーブリック評価表によりグループ単位で評価する。
合格基準：ルーブリック評価尺度すべてが (A) あるいは (B) であること。
- 4) 早期臨床体験実習振り返りワークショップ終了後に、学生が「早期臨床体験実習振り返りレポート」を提出し、それに対して診療現場体験担当分野の振り返りレポート評価担当者が、所定のルーブリック評価表により文章力の評価を行い、フィードバックコメントを記載して学生に返却する。
合格基準：ルーブリック評価尺度すべてが (A) あるいは (B) である。
- 5) チーム医療入門ワークショップに参加し、リフレクションシートおよびチーム医療入門振り返りレポートを提出する。振り返りレポートについては、医学科教務委員が分担して、所定のルーブリック評価表により文章力の評価を行い、フィードバックコメントを記載して学生に返却する。
合格基準：チーム医療入門ワークショップ参加し、リフレクションシートを提出している。
振り返りレポートのルーブリック評価尺度すべてが (A) あるいは (B) である。

7. 早期臨床体験実習実施にあたり各分野の担当教員が行うこと

早期臨床体験実習では、担当する各分野において、実務担当者、診療現場体験担当者、振り返りレポート評価担当者を決める。これらの担当は分担、一人ですべて担当いずれも可とする。診療現場体験担当者は、大学教育再生加速プログラム「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の実践型 FD への参加実績として登録するため、前年度までに担当していない者が望ましい。

1) 実務担当者が行うこと

- (1) 診療現場体験担当者氏名・連絡先、振り返りレポート評価担当者氏名・連絡先、診療現場体験の内容（中央診療部門の見学が集中することを避けるため他分野との調整が必要であり、その場所・時間を必ず明記）、学生への連絡事項について、「早期臨床体験実習分野担当者・連絡事項記入ファイル（〇〇分野）」に記入し、学務課第一教務係（isygakumul@tokushima-u.ac.jp）へ、電子メールで提出する（締切：4月28日）。
*入力用ファイルは電子メール添付で実務担当者に送信します。
- (2) 診療現場体験担当者、振り返りレポート評価担当者に早期臨床体験実習を含めた SIH 道場の概要・実施方法を説明する。その実施報告を「SIH 道場 FD・説明会に参加できない教員の対応報告書（〇〇分野）」に記入し、学務課第一教務係（isygakumul@tokushima-u.ac.jp）へ電子メールで提出する（締切：5月19日）。
*説明用資料、対応報告書は電子メール添付で実務担当者に送信します。

2) 診療現場体験担当者が行うこと

- (1) 診療現場体験当日の学生指導（当日の身だしなみや健康状態のチェックを含む）
*原則として見学型実習スタイルとする。一方的なレクチャースタイルのみとしない。
*事前説明の内容は「病院ルール（ハンドアウト）」参照。
- (2) 学生が提出する「診療現場体験リフレクションシート」（紙媒体）へフィードバックコメントを記載し、学務課第一教務係に提出（締切：6月7日）。

2. 医学科

- *学生とのシートのやり取りは学務課第一教務係が担当。
- *担当教員にはリフレクションシートが5月30日頃に届く予定。
- (3) Mahara システム (Web) に授業実践の振り返りを入力する (締切: 6月7日)。
 - *この入力ティーチング・ポートフォリオの作成に該当し、この作成をもって大学教育再生加速プログラム「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の実践型FDへの参加・受講完了となります。
 - *「SIH 道場担当教員用 Mahara マニュアル」、「Mahara 操作マニュアル補足資料」を参照
- (4) 早期臨床体験実習診療現場担当者対象アンケートに回答し、第一教務係へ提出する (締切: 6月7日)。
- (5) SIH 道場についての教員対象アンケート (web) に回答する (総合教育センターから電子メールで依頼がある予定)。

3) 振り返りレポート評価担当者が行うこと

- (1) 学生が提出する「全体振り返りレポート」(紙媒体)に対して、「ループリック評価シート(文章力)」(紙媒体)にフィードバックコメントと評価を記載し、学務課第一教務係に提出 (締切: 6月17日)。
 - *学生とのレポートおよび評価表のやり取りは学務課第一教務係が担当。
 - *担当教員にはレポートが6月7日頃に届く予定。

平成 28 年度 SIH 道場 医学部医科栄養学科 授業詳細

- 目的：1) 医療現場で働く各専門職種を目指す学生同士の相互理解を深めることで、将来、共に円滑なチーム医療推進に必要な基盤を形成するための動機付けとする。
- 2) 医療人を目指す学生として準備すべき課題、今後の学生生活で学ぶべき課題、修得すべき課題を、他学部・他学科の学生と共に考え、お互いから学ぶことで、医療人としてのプロフェッショナルリズムの醸成を図る。

■到達目標：

- ①チーム医療の基盤を形成することができる。
- ②研究室体験やチーム医療入門ワークショップを通じて、大学における各自の学習課題を発見する。
- ③ノンテクニカルスキル（コミュニケーション力）を育成することができる。
- ④プロダクトの作成を通じて、協働力を養う。KJ法を用いて意見をまとめ、論理的に因果関係を説明することができる。
- ④効果的なプロダクトのプレゼンテーションを行うために、ツールを用いて説明することができる。
また、他の班のプレゼンテーションを聞いて討議に参加することができる。
- ⑤ワークショップに積極的に参加し、他学部・他学科学生とコミュニケーションを取りながら、能動的に参加し、協力してプロダクトを作成することができる。
- ⑥研究室体験やチーム医療入門ワークショップで得た体験や気づきを振り返り、「SIH道場振り返りレポート」としてeポートフォリオシステムへ入力することができる。
- ⑦自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。
- ⑧将来の進路やビジョンについて考えることができる。

■成績評価：「SIH道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

【SIH道場 体験学習リフレクションシートおよびSIH道場（チーム医療入門WS振り返りレポートの内容）

以下の1)～4)を含むこと。レポートは手書きでも構わないが、電子媒体での作成・提出を推奨する。

- 1) 研究室体験やチーム医療入門ワークショップを通じて学んだことと、大学における今後の各自の学習課題についてレポートを作成する。（文章力・早期体験の目標に対応）
 - ・体験学習で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に学んだこと（事後）、今後の目標（大学での各自の学習課題）の3点についてA4判1枚程度のレポートを作成する。
 - ・ルーブリックの「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 2) チーム医療入門ワークショップにおけるプロダクトの作成（協働力の目標に対応）
 - ・ルーブリックの「協働力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 3) チーム医療入門ワークショップにおける学習成果発表（プレゼン力の目標に対応）
 - ・ルーブリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

3. 医科栄養学科

【SIH 道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・大学入門講座、研究室体験、チーム医療入門ワークショップの全てに出席すること。(必須)
- ・体験学習で学びたいと考えていたこと(事前)、実際に学んだこと(事後)、今後の目標(大学での各自の学習課題)の3点が記載されていること。(必須)
- ・eポートフォリオにワークショップにおける学習の成果としてのプロダクトの写真が提出されていること(必須)
- ・「自己評価」と「チームメンバーからの評価(平均点)」が記入された「協働力」、「プレゼン力」、「文章力」のルーブリックが添付されていること。(必須)
- ・上記ルーブリックの「協働力」「プレゼン力」「文章力」それぞれの総合点が60以上であること。(必須)
- ・その他、レポートに必要なだと思う内容(任意)

■授業内容

(1) SIH 道場 (新入生オリエンテーション)

①学科別オリエンテーション・SIH 道場

平成28年4月5日(火) 8時30分～12時

(目的) 大学における学習・生活について学ぶ

(概要)

- ・学科長挨拶
- ・教務委員挨拶
- ・医科栄養学科教員挨拶
- ・教養教育科目の履修について
- ・学生生活に関する諸注意

②医学部合同オリエンテーション

平成28年4月6日(水) 13時30分～16時

(目的・概要) 大学における学習・生活について学ぶ

③学科別オリエンテーション

平成28年4月7日(木) 13時～15時30分

(目的・概要) 大学における単位履修登録について

④医学科・医科栄養学科合同オリエンテーション

平成28年4月8日(金) 8時45分～12時

(目的) 大学における情報・研究倫理に関する基本ルールを学ぶ

(概要)

- ・8時45分～9時15分 情報セキュリティについて
- ・9時15分～9時45分 Student Lab について
- ・10時～11時 動物実験講習会

3. 医科栄養学科

・ 11時～12時 遺伝子操作講習会

⑤医学部合同新入生研修（SIH 道場）

平成28年4月9日（土）8時30分～13時

（目的・概要）大学生活における諸注意と医学部新入生、上級生、教員相互の親睦を図る。

（2） SIH 道場・早期体験学習（研究室体験）

日時：平成28年9月30日（金）9時～12時30分

場所：栄養学棟 各分野研究室

目的・概要：医科栄養学科1年次のグループ担任が所属する研究室において、研究内容の説明、卒業研究や大学院での研究室生活について卒論生・大学院生より説明を受けると共に、実際の研究現場を見学する。栄養学の最先端の研究活動に触れることで、学部の中に学ぶべきこと、自身の学習目標、将来のビジョンを考える。

①事前学習

各分野のホームページで研究室の概要・活動内容などについて調べる。

②研究室体験

各分野所定のプログラムによる。

- ・分野の研究概要説明
- ・卒論生・大学院生による研究生生活の説明
- ・研究室見学
- ・懇談会（振り返りワークショップ）

③事後学習

振り返りレポート（SIH道場・チーム医療入門ワークショップのレポートに含めること）

（3） SIH 道場・チーム医療入門ワークショップ

日時：平成28年9月30日（金）13時00分～17時

場所：蔵本キャンパス内

対象：蔵本地区1年生 約450名

目的：医療現場で働く各専門職種を目指す学生が相互理解し、将来、共に円滑なチーム医療を行うための基盤を形成する動機付けとなる。医療人を目指す学生として、今後の学生生活で学ぶこと、修得することを、他学部・学科の学生と共に考え、お互いに学ぶことで、医療人としてのプロフェッショナリズムの醸成を図る。

概要：医療安全、コミュニケーション、災害医療などのテーマで講演を拝聴し、テーマに沿ったグループワーク（ディスカッション）を行い、プロダクトを作成・発表・討議する。

テーマ：未定

タイムスケジュール：未定

※詳細は、医療教育開発センターによる授業詳細参照すること。

平成 28 年度 SIH 道場 医学部保健学科看護学専攻 授業詳細

■目的：徳島大学医学部保健学科看護学専攻の新生が、大学における学習について理解するとともに、

自身の専門分野における先輩からの仕事や研究に関する講演を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：

- (1) 自身の専門分野における現場と大学における学習について、関連させて説明することができる。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について 1 つ以上説明することができる。
- (2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を 1 つ以上説明することができる。
- (2-3) 他者と協同して 1 つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■成績評価：「SIH 道場 先輩からのメッセージ」レポートを以下の合格基準をもとに評価する。

【SIH 道場 先輩からのメッセージの内容】

以下の 1) 2) を含む「SIH 道場 先輩からのメッセージ」レポートを作成すること。レポートは手書きでも構わないが、電子媒体での作成・提出を推奨する。

1) 体験学習個人レポート（文章力の目標に対応）

・体験学習で学びたいと事前に考えていた内容、体験学習で実際に学んだ内容、今後の目標の 3 点について、A4 判 1 枚程度のレポートを作成する。

・ループリックの「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

2) 「SIH 道場 先輩からのメッセージ」での収穫

【SIH 道場 先輩からのメッセージレポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・レポートに「SIH 道場 先輩からのメッセージ」の体験学習個人レポートが添付されていること。
(必須)
- ・「自己評価」と「文章力」のループリックが添付されていること。(必須)
- ・上記ループリックの「文章力」の総合点が 6 割以上であること。(必須)
- ・「SIH 道場 先輩からのメッセージ」の収穫を 1 つ以上挙げて、説明すること。収穫が全くない場合は、その理由とどうすれば収穫が得られそうかを書くこと。(必須)
- ・その他、レポートに必要なだと思う内容 (任意)

4. 看護学専攻

■授業実施方法

日時	授業名	内容	担当者
4月4日(月) 10:00～	●学科別オリエンテーション	大学で学ぶ意味 SIH 道場とは 学修設計とは	保健学科長 教務委員長 学生委員長 1年担当教員(安井、 奥田、千葉、高橋)
4月7日 (木) 9:00-12:00	●専攻別オリエンテーション	ラーニングスキル(文章力) レポートの書き方について	教務委員 1年担当教員(安井、 奥田、千葉、高橋)
4月8日 (金) 午前 9:00-12:00	●先輩からのメッセージ1 ～将来像のイメージ化～	体験学習 大学院に進学した先輩からのメ ッセージを聞いて質疑応答。レ ポートを提出	教務委員 1年担当教員(安井、 奥田、千葉、高橋)
午後 13:00-17:00	●図書館ツアー	体験学習 4班に分かれて、図書館の利用の 仕方について学修する。	1年担当教員(安井、 奥田、千葉、高橋)
4月9日 (土) 8:35～	●新入生研修	体験学習、ラーニングスキル(文 章力、協働力、プレゼンテーシ ョン力)	教務委員 1年担当教員(安井、 奥田、千葉、高橋)
4月14日 (木) 15:30～	●先輩からのメッセージ2 ～将来像のイメージ化～	体験学習(4年生と合同) 大学病院で働いている看護師や 4年生からのメッセージを聞き、 質疑応答を行う。レポートを作 成する。	教務委員 1年担当教員(安井、 奥田、千葉、高橋)
4月21日 (木) 15:30～	●先輩からのメッセージ～ 3将来像のイメージ化～	体験学習 看護師・保健師・助産師・養護 教諭からのメッセージを聞き、 質疑応答を行う。レポートを作 成する。	
6月30日 (木) 15:30～ 7月7日 (木)	●大学生としてのマナーや 態度を題材としたプレゼン テーション能力等の育成	グループワーク 身近な事例を提示し、医療人を 目指す学生としてのマナーや姿 勢についてディスカッションす る。また、結果をプレゼンテー	1年担当教員(安井、 奥田、千葉、高橋)

4. 看護学専攻

15 : 30～		ションし相互評価を行う。	
9月30日 (金)	●チーム医療入門	体験学習、ラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)	医療教育開発センター 教務委員 1年担当教員(安井、 奥田、千葉、高橋)

4. 看護学専攻

■授業実施計画

1) SIH 道場とは

【概要】保健学科大学入門講座として行われている学科別ならびに専攻別オリエンテーションにおいて、SIH 道場についての概要を説明する。その際、事前学習に関する内容（反転授業コンテンツ）についても説明する。また、希望学生においては興味をもっている分野の研究室に1年生から出入りすることが可能である旨を説明する。

2) ラーニングスキル（レポートの書き方）（4月7日（木）実施）

【概要】体験学習などの際に提出するレポートの書き方について早期に指導する。

【準備】ビデオ教材「文章力を身につけよう」の視聴を指示

【事前学習】ビデオ教材「文章力を身につけよう」を視聴する

【授業後】学生からのレポート提出、教員によるレポート評価、学生へのフィードバックを行う。

3) 体験学習（先輩からのメッセージならびに図書館ツアー）（4月8日（金）実施）

【概要】保健学科の大学入門講座である「先輩からのメッセージ」では、卒業学生が大学生活の実態について説明する。学生は自分の今後の大学生活について具体的にイメージし、目標を考える。また、図書館ツアーでは、自分たちが学習できる環境についても学ぶ。

【準備】新入生は各自が本学看護学専攻に進学した動機を文章化しておく。

【事前学習】大学生活で自分が身につけたい能力を明らかにし、そのためにはどのような授業に最も関心を持っているか、シラバスを読み確認する。

【授業後】大学生活では何をどのように学んでいこうと考えるかについてレポートを作成し提出する。

4) 新入生研修（4月9日（土）13:00～16:30 実施）

【概要】新入生研修の午後の部を利用して、ワークショップを行う。ワークショップでは、医療に関する身近なテーマについてグループワークを行い、グループごとにプレゼンテーションする。他のグループのプレゼンテーションを見て、各自がルーブリック表に従い評価する。本ワークショップを通して、医療に関する早期体験学習とともに、文章力、協働力、プレゼンテーション力といったラーニングスキルを獲得することを目的とする。

【準備】ビデオ教材「協働力」「プレゼンテーション力」の視聴を指示

【事前学習】ビデオ教材「協働力」「プレゼンテーション力」を視聴

【授業後】学生アンケートを実施して、来年度以降の参考とする

5) 先輩からのメッセージ～将来像のイメージ化～（4月14日（木）、21日（木）15:30～16:30）

【概要】保健学科の大学入門講座である「先輩からのメッセージ」では、各専攻の卒業生が後輩の新入

4. 看護学専攻

生に対して卒業後の進路について説明する。このメッセージを通して、新入生は自分たちの将来像を描くことができるようにする。

【準備】学生にはあらかじめ、自分の希望の職種（看護師、保健師、助産師、養護教諭など）ならびに将来希望の内容（がん看護、地域医療、国際看護、小児看護など）について事前に学習しておくように指導する。

【事前学習】自分の希望の職種（看護師、保健師、助産師、養護教諭など）ならびに将来希望の内容（がん看護、地域医療、国際看護、小児看護など）について事前に学習しておく。

【授業後】将来像について、〇月〇日までにレポートの作成を指導する。

6) 大学生としてのマナーや態度を題材としたプレゼンテーション能力等の育成 (6月30日(木), 7月7日(木) 実施)

【概要】医療人を目指す学生としてのマナーや姿勢は、貴重な学外実習の経験を学生自身の主体的な学びにつなげるために必要不可欠な要素である。マナーや姿勢、態度について、身近な事例を提示し、グループでディスカッションをすることにより、他の学生の価値観を共有しながら、自分自身の考えを深める機会とする。併せて、ディスカッションの結果を、効果的に伝えるためのプレゼンテーション能力を養う機会とする。プレゼンテーションの相互評価及び、グループワークにおける自己評価を行う。

【準備】学生としてのマナーや態度に関する事例を作成し提示する。ビデオ教材「プレゼンテーション力」の視聴を指示する。

【事前学習】提示された事例を読み、各自で、何が問題かを明確にしておくとともに、ビデオ教材「プレゼンテーション力」の視聴の視聴し、プレゼンテーション力の要素を理解しておく。

【授業後】次年度の参考のために事後アンケートを実施する。プレゼンテーションや自己評価の結果を学生にフィードバックする。

7) チーム医療入門 (9月30日(金) 13:00~17:00 実施)

【概要】医療教育開発センターによる授業詳細参照

■毎回の授業後に担当教員が行うこと

- ・担当クラスの学生が提出した「振り返りシート」へ一言コメント。

■「SIH 道場 先輩からのメッセージ」終了後に担当教員が行うこと

1) 担当クラスの学生が提出した「SIH 道場 先輩からのメッセージレポート」の添削

- ・不合格者には「再提出要求」を出す。
 - ・合格者には点数をつける。(100点満点)
- ##### 2) 「SIH 道場 先輩からのメッセージレポート実施報告書」の提出
- ・所定の様式に沿って作成・提出する。(様式は、Word版、eポートフォリオ版の2つがある)
 - ・提出先はeポートフォリオシステム上とする。

3) 他の担当教員の「SIH 道場 先輩からのメッセージレポート実施報告書」の閲覧と相互コメント

4. 看護学専攻

■終了後にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

5. 放射線技術科学専攻

平成 28 年度 SIH 道場 医学部保健学科放射線技術科学専攻 授業詳細 「短期研究室体験」

■目的： 本学放射線技術科学専攻新入生が大学における学修について理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学修・研究に対する動機づけを行う。また、学修の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学修の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標： (1) 短期研究室体験によって専門分野における先端研究を体験し、研究内容を大学における学修と関連させて説明することができる。
(2) 論理的文章を作成する際に注意すべきことを一つ以上説明することができる。
(3) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。
(4) 他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。

■成績評価： 文章力の評価として、研究室体験の感想を文章にまとめて提出させ、教員が評価する。プレゼン力の評価として新入生全員が参加する体験学習の報告会を開催し、プレゼンテーションを教員が評価する。

■授業実施方法：

日時	授業名	内容	担当
4月8日(金) 9:00~11:00	保健学科共通オリエンテーション	先輩からのメッセージ	保健学科教務委員長
4月8日(金) 13:00~17:00	放射線技術科学専攻 短期研究室体験オリエンテーション	各研究室の紹介、事前学修～配属先の決定、配属先の専門分野に関する課題のレポート作成・提出	専攻全教員
4月9日(土) 8:35~	新入生研修	午前は学生生活や行動規範に関する講義、午後はグループディスカッションを中心とした研修	吉永哲哉・阪間稔・森田明典・富永正英 他
6月毎週木曜 6講時 15:30~16:30	SIH 道場	パワーポイントを用いた発表演習 (計4回)	林裕晃

5. 放射線技術科学専攻

		各研究室体験テーマ		
4月～9月まで1～数日程度の短期研究室配属			環境試料の前処理, 分離精製, 元素分析・放射能測定ほか	阪間稔
			脳機能イメージング	河野 理
			細胞に生じた DNA 損傷の検出法	森田明典
			X線画像を用いた物質同定	林裕晃
			人工知能技術の医用画像分野への応用	近藤正
			核磁気共鳴画像(MRI)を中心とした非侵襲的イメージング手法と解析法の研究	金澤裕樹
			画像再構成・強度変調放射線治療計画を体験しよう	吉永哲哉・児島雄志
			組織の X 線吸収差を利用した画像化技術	上野淳二・高尾正一郎
			心理学測定法によるモニタ輝度低下の評価	井村裕吉
			代謝・機能の画像診断	大塚秀樹
			胸部 X 線写真の世界的な情勢と画像の形成から評価まで	西原貞光
			放射線治療計画・高精度放射線治療の品質保証・品質管理	生島仁史・富永正英
9月28日(水) 15:00～18:00	短期研究室体験報告会	各研究室グループでプレゼンテーション	専攻全教員	
9月30日(金) 13:00～17:00	チーム医療入門	早期体験、ラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)	医療教育開発センター	

■授業実施計画:

1) 保健学科共通オリエンテーション (4/8 (金) 9:00～11:00 実施)

【概要】保健学科大学入門講座として行われている保健学科共通オリエンテーションにおいて、大学生生活全般に対するメッセージを先輩学生が紹介する。

2) 短期研究室体験オリエンテーション (4/8 (金) 13:00～17:00 実施)

【概要】専攻における SIH 道場の概要説明、および各研究室の体験内容の紹介。紹介の際に、研究室ごとにそれぞれの専門分野、体験内容に関する重要事項を学ぶための基礎的な課題を課す。新入生それぞれの配属先を決定後、配属グループごとに図書館等で調べさせ、課題の解答をレポート形式で教員に提出する。教員は提出されたレポートを評価し、学生へフィードバックする。

【事前学習】反転授業コンテンツ「レポートの書き方入門」視聴。

5. 放射線技術科学専攻

【授業後】学生からのレポート提出、教員によるレポート評価、学生へのフィードバック。

3) 保健学科共通新入生研修 (4/9 (土) 8:35～ 実施)

【概要】午前は、医学部合同新入生研修として学生生活や行動規範に関する講義。午後は、保健学科・大学入門講座として行われている保健学科共通オリエンテーションにおいて、SIH道場の実践として、グループディスカッションを中心とした研修を行う。

4) 短期研究室体験 (4月～9月まで、各研究室にて1～数日程度実施)

【概要】授業実施方法欄の各研究室テーマに配属学生が取り組む。短期研究室体験における指導を通して、文章力およびプレゼンテーション能力の向上を図るとともに、協働作業を体験させることで課題解決のための協働力の重要性を認識させる。

【事前学習】反転授業コンテンツ「アイデアの発想・収束 (KJ法)」の視聴

5) 6月期 SIH道場 (6月9、16、23、30日(木)の6講時(15:30～16:30)、計4回)

【概要】短期研究室体験報告会での発表を想定し、「パワーポイント」を用いて、発表の演習を行う。発表者および聴講者の観点から、適切な発表形式についての考察も行う。

【事前学習】「情報活用演習」の講義内容と深く関連するため、当科目の復習をしっかりと行っておくこと。特に、グラフの書き方は非常に重要。

【授業後】レポート(感想文)提出。

6) 短期研究室体験報告会 (9/28(水)15:00～18:00実施)

【概要】各研究室の体験内容について、学生が配属グループごとにプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションは配属学生が分担して口頭発表する全員参加形式とし、発表内容の評価は担当教員中心に行う。

【事前学習】反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴

【授業後】体験内容に関する学生からの感想文提出、教員による感想文の評価、学生へのフィードバック、ポートフォリオ作成。

7) 蔵本地区チーム医療入門ワークショップ (9月30日(金)13:00～17:00実施)

医療教育開発センターによる授業詳細参照

6. 検査技術科学専攻

平成 28 年度 SIH 道場 医学部保健学科検査技術科学専攻 授業詳細

■目的：保健学科検査技術科学専攻新生が大学における学修について理解するとともに、自身の専門分野である臨床検査学の先端研究や現場の体験を通して、臨床検査学への興味関心を喚起し、大学における学修・研究に対する動機づけを行う。また、学修の基本となる文章の書き方、協働力、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標

事前学習、体験授業（「先輩からのメッセージ」「大学院のすすめ」）、振り返り学修（「将来像を描く」レポート作成）によって、臨床検査技師の役割を理解し臨床検査学分野に対する興味関心を高め、自身の将来像について考える。またラーニングスキルを獲得（文章力：「将来像を描く」レポート作成、プレゼンテーション力：「新入生研修」「チーム医療入門」での発表、協働力：「新入生研修」「チーム医療入門」でのグループワーク）して、大学における学修の基本となる能動的学修の基礎を身につけ、学修を振り返る習慣をつけて、自ら学修を計画し実施できる大学生となる。

- 1) 臨床検査学の幅広い分野を知る。
- 2) 臨床検査技師の検査における役割を理解する。
- 3) 臨床検査学分野における大学院や科学的研究について知る。
- 4) 将来像について考える。
- 5) 文章力を身につけ、科学的なレポート作成ができる。
- 6) グループで協働して意見をまとめ、それをプレゼンテーションすることができる。
- 7) 学修を振り返り、学修計画を立てて実施することができる。

■成績評価

授業の出席、提出レポートにより評価する。レポート評価に際してはルーブリック「文章力」により行う。なおレポートは手書きでも構わないが、電子媒体での作成・提出を推奨する。

■授業実施方法：

日時	授業名	内容	担当
4月7日(木) 9:30~10:30	SIH道場の理解	SIH道場の目的・実施の流れとその対応、レポートの書き方、ルーブリックについての説明	細井英司
4月8日(金) 9:00~11:00	先輩からのメッセージ	早期体験	保健学科教務委員、 細井英司、濱野修一、(協力：大学院生)

6. 検査技術科学専攻

4月15日(金)までの時間を使用	将来像を描く	ラーニングスキル(文章力)	細井英司、濱野修一(評価者)
4月9日(土) 8:35~16:30	保健学科新入生研修 ワークショップ	ラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)	片岡佳子、細井英司、(協力:総合教育センター)
6月30日(木) 18:00~19:30	大学院のすすめ	早期体験	細井英司、香川典子、齋藤憲、片岡佳子、近藤和也、安井敏之、濱野修一、その他(専攻教員・大学院生)
9月30日(水) 13:00~17:00	チーム医療入門	早期体験、ラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)	医療教育開発センター、協力:香川典子(大学院生)、細井英司

5. 授業実施計画

1) SIH道場の理解 (4月7日(木) 9:30~10:30 実施)

【概要】検査技術科学専攻におけるSIH道場の目的・実施の流れとその対応について説明する(SIH関連ビデオを視聴)。また、レポートの書き方、ループリックについて説明し、今後の授業内容を理解させる。

2) 先輩からのメッセージ (4/8(金) 9:00~11:00 実施)

【概要】保健学科新入生オリエンテーション・SIH道場として行われている「先輩からのメッセージ」では保健学科各専攻の卒業生が、各専攻の概要、卒業後の進路等について説明し、後輩の新入生に向けて年齢的にも学生に近い立場からの先輩としてのエールを送る。この授業のうち、検査技術科学専攻卒業生からのメッセージから、早期体験(疑似体験)して自分の将来像について考える。

【準備】検査技術科学専攻卒業生の発表内容の紹介により、学生に対して事前学習を指導する。

【事前学習】Moodleによる事前学習を必須とする。

【授業後の課題】将来像を描くレポート課題があるので、4/15までにレポート作成を指導する。

3) 将来像を描く (4/15(金)までの時間を使ってレポートを作成)

【概要】保健学科大学入門講座として行われた「先輩からのメッセージ」を聞いて、「将来像を描く」レポートを作成する。レポート作成にあたっては、大学での能動的学修をめざしてラーニングスキルを獲得するため、文章力を身につけることを目的とする。作成したレポートをもとに、各自でループリック「文章力」による自己評価をして、教員に提出する。教員は提出されたレポートを評価し、学生へフィードバックする。(Mahara利用)

【準備】ビデオコンテンツ「文章力」の動画視聴を指示、「将来像を描く」レポート作成の課題を出す。

【事前学習】反転授業ビデオコンテンツ「文章力」の動画などを視聴。ビデオを参考にして「将来像を描く」レポートを作成。自分の将来を十分に考えるための時間とることが必要である。

6. 検査技術科学専攻

【授業後】学生からのレポート提出、教員によるレポート評価、学生へのフィードバックを行う。

4) 医学部新入生研修・保健学科新入生研修<ワークショップ> (4月9日(土) 医学部新入生研修 8:30~12:00、保健学科新入生研修<ワークショップ> : 13:00 から 16:30 実施)

【概要】新入生研修の午後の部を利用して、総合教育センターの協力のもとワークショップを行う。ワークショップでは、医療に関する身近な話題をテーマとして、グループでワークを行い、グループごとにプレゼンテーションをする。他グループのプレゼンを見て、各自がグループワーク表に従って評価する。本ワークショップではラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)の獲得を目標とする。

【準備】ビデオコンテンツ「プレゼンテーション力」「協働力」の視聴を指示。

【事前学習】ビデオコンテンツ「協働力」「プレゼンテーション力」の視聴。

【授業後】学生アンケート実施して、来年度以降の授業の参考とする。

4) 大学院のすすめ (6/ 30 (木) 18:00~19:30 実施)

【概要】大学院担当教員による大学院の概要説明を聞き、大学院を知り、臨床検査学分野の先端研究に興味や関心を持つ。授業を通して、将来像の一つの選択肢として大学院進学を考えるきっかけとする。

【準備】保健科学教育部についてHP等を見て、本教育部にある領域を調べておくように学生に指導する。

【事前学習】HPなどの閲覧。

【授業後】学生の授業での取り組み態度や意見から、来年度以降の授業内容を考察する。

5) チーム医療入門 (9月30日(金) 13:00~17:00 実施)

医療教育開発センターによる授業詳細参照

平成 28 年度 SIH 道場 歯学部 授業詳細

「協働力：コンセンサスゲーム」 4/15（金）16:20-17:50

到達目標：他者と協働して1つの課題に取り組むことができる。

Key Points：①ラーニングスキル（協働力）の育成
 ②自身の経験と考えに基づく意見発表と相手からのフィードバックによる気づき
 ③振り返りの経験

○事前学習

本体験学習ではグループワークに用いる手法に関する事前資料の内容を理解する。

○授業内容（70分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆ 導入 出席確認、本日の内容の確認 ◆ グループワークの課題説明	
10分	▲アイスブレイキング（各自の自己紹介等）	
30分	▲グループワーク （与えられた課題に対し、各自の考えを話し合いながら最終的に、グループ構成メンバー全員が同意し得る、結論を導き出す。）	配布資料
20分	● 振り返り 結論、その過程について、グループごとに発表	
5分	まとめ	

○評価方法・基準（合格基準）

・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。

注釈：クラスサイズ：55名程度

「協働力：ワールドカフェ」 4/15（金）14:35-16:05

到達目標：他者と協働して1つの課題に取り組むことができる。

Key Points：①ラーニングスキル（協働力）の育成

②自身の経験と考えに基づく意見発表と相手からのフィードバックによる気づき

③振り返りの経験

○事前学習

本体験学習ではグループワークに用いる手法に関する事前資料の内容を理解する。

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
3分	◆ 導入 出席確認、本日の内容の確認 ◆ 第1回目のグループワークの課題説明	
20分	▲グループワーク (第1の課題に題し、各自の考えを話し合いながら模造紙に記入していく。)	模造紙、マジック グループの人数は5～6人
2分	◆ 席替え ◆ 第2回目のグループワークの課題説明	
20分	▲グループワーク (第2の課題に題し、各自の考えを話し合いながら模造紙に記入していく。)	模造紙、マジック グループの人数は5～6人
2分	◆ 席替え ◆ 第3回目のグループワークの課題説明	
20分	▲グループワーク (第3の課題に題し、各自の考えを話し合いながら模造紙に記入していく。)	模造紙、マジック グループの人数は5～6人
20分	● 振り返り 授業全体を振り返り、学んだこと、グループで協働作業をすることやプレゼンテーションについて重要な点をまとめ、自己評価を行う。	
3分	まとめ	

○事後学習

振り返り内容をまとめ、eポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。(教員はコメントをフィードバックする)。

○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・作成されたレポート内容から、到達目標に沿った学習が確認できたか、評価する。
- ・eポートフォリオシステムにて教員コメントの確認を行ったか、評価する。

注釈：クラスサイズ：55名程度

「体験学習：気づきの体験学習」 4/22（金）14:35-16:05

- 到達目標：① 基本的マナーを守ることができる。
 ② コミュニケーション力を養うことができる。
 ③ ホスピタリティ・マインドをもって対応することができる。

- Key Points：①学習目標の理解
 ②振り返りからの気づき
 ③e ポートフォリオシステムによる担当教員コメントへの振り返り

○事前学習

本体験学習では事前学習を行わず、授業を進める。

○授業内容（80分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆導入 出席確認、本日の内容の確認	名札、資料（課題・振り返りシート）の配布
10分	●一円玉の気づき：重要な点は何を考える。	一円玉
10分	●個人による作業：参加者とのコミュニケーションを行いながら、与えられた課題を遂行する。	配布資料
20分	▲ペアによる作業：学生同士のペアにより、与えられたコミュニケーション課題を行なう。	
5分	●振り返り：作業を振り返り、自己評価を行う。	振り返りシートに記載する。
15分	▲ペアによる再作業：与えられた課題を再度行なう。	
5分	●振り返り：作業を振り返り、自己評価を行う。	振り返りシートに記載する。
10分	◆まとめ：授業全体を振り返り、学んだこと、到達目標についての重要な点を学生から導く ◆e ポートフォリオについての説明、レポート用紙記載の説明、次回の授業の予告等	e ポートフォリオ用授業レポート用紙 SIH 道場冊子（配布済み）

○事後学習

振り返り内容をまとめ、e ポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。（教員はコメントをフィードバックする）。

○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・作成されたレポート内容から、到達目標に沿った学習が確認できたか、評価する。
- ・e ポートフォリオシステムにて教員コメントの確認を行ったか、評価する。

注釈：クラスサイズ：55名程度

「体験学習：相互歯磨き学習」 5/6（金）14:35-16:00

- 到達目標：① 基本的マナーを守ることができる。
 ② コミュニケーション力を養うことができる。
 ③ ホスピタリティ・マインドをもって対応することができる。

- Key Points：①到達目標の理解
 ②相互の立場に立った経験と相手からのフィードバックによる気づき
 ③e ポートフォリオシステムによる担当教員コメントへの振り返り

○事前学習

本体験学習では事前に相互歯磨きを行うにあたり大切と思うことをキーワードとして考えてきてもらう（課題資料を事前に配付する）。事前に想像力を喚起したうえで、授業に臨んでもらう。

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆導入 出席確認、本日の内容の確認	名札、ワークシート、必要物品の配付
40分	▲ペア同士で相互歯磨きをする。 (20分程度で術者役側と患者役側の交替を促す)	基本的な説明は行うが、あくまでもお互いの思いやりでポジショニングや器具の使い方などを工夫するように促す。
10分	●個人で振り返り 相互歯磨きを振り返り、ワークシートを仕上げる。	ワークシート
10分	▲ペアでフィードバック：相互歯磨きを振り返り、お互いにどんなことを思っていたのかどんなことを気にしていたのかを相互にフィードバックする。	制限時間を設けて、お互いの気持ちを遠慮なく伝えられるような雰囲気を作る。
10分	▲全体に対するフィードバック：人の口を触ることがどんなことか、何を大切に考えないといけないか、各自の考えを発表してもらう。 ◆まとめ：人の口を触ることの意味を再確認する。	発表者が偏らないよう配慮する。発言に対して短くコメントする。
5分	▲後片付け	
10分	●授業全体を振り返り、授業レポートを作成させる。	e ポートフォリオ用授業レポート用紙

○事後学習

振り返り内容をまとめ、e ポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。（教員はコメントをフィードバックする）。

○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・作成されたレポート内容から、到達目標に沿った学習が確認できたか、評価する。
- ・eポートフォリオシステムにて教員コメントの確認を行ったか、評価する。

注釈：クラスサイズ：55名程度

「文章力：アカデミック・ライティング入門／読書レポート」

到達目標：

- ① 論理的文章やレポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。
- ② 論理的に読書レポートを作成することができる。

Key Points：①ラーニングスキル（文章力）の育成

- ②振り返りの経験

○事前学習

「アカデミック・ライティング入門」：授業前に与えられた資料（課題）に対する事前レポートを作成する。

○授業内容（3回の対面授業：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
1回目 4/7（木） 60分	◆導入「読書レポートについて」 本関連授業の到達目標と授業の概要について説明し、事前学習の課題を与える。	事前学習の課題に関する資料
事前学習	●「事前レポート」の作成 与えられた資料（課題）に対する事前レポートを作成する。	
2回目 5/13（金） 180分	「アカデミック・ライティング入門」 ◆担当教員は学生から提出された事前レポート内容に関するフィードバックを総括して行う。 ●学生は、重要ポイントを確認し、自身のレポートを授業中に校正して、最終的な「読書レポート」の書き方を学ぶ。	「アカデミック・ライティング入門」授業のハンドアウト
授業外学修	●「読書レポート」の作成 学生は課題図書の中から一冊を選び、事前に示した「読書レポート」の要件に従って記載して提出する。	課題図書2冊
	提出された「読書レポート」に対して教員がコメントを記載して返却する。	
3回目 30分 7/8（金）	●振り返り 学生は読書レポートに対するコメントを確認し、各自の自己評価内容を再度提出する。	読書レポート授業振り返り用紙

○授業外学修

課題図書2冊の中から1冊を選び、「読書レポート」を規定の要件に従って記載して提出する。

(教員はコメントをフィードバックする)。

○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・作成された読書レポート内容から、到達目標に沿った学修が遂行できたか、評価する。
- ・教員コメントの確認および自己評価内容について評価する。

注釈：クラスサイズ：55名程度

「PBL 入門」 6/10（金）14:35-16:05

Key Points : ①問題解決型学習（PBL）の経験
②振り返りの経験

○事前学習

与えられたテーマ*1について1分間プレゼンテーションの準備を行う。

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆導入 出席確認、本日の内容の確認、グループ分け	グループ（6～7名）
10分	◆臨床症例提示 質問があれば受け付ける。	
35分	▲グループディスカッション 治療に関するディスカッションを行う。	
20分	▲いくつかのグループによるプレゼンテーション グループディスカッションの内容を発表する。	
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、学んだこと、プレゼンテーションについての重要な点をまとめ、自己評価を行う。	
5分	◆まとめ 次回の授業の予告、TBL資料配布	

○事後学習

振り返り内容をまとめ、eポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。（教員はコメントをフィードバックする）。

注釈

★*1 テーマに体験学習、または専門分野に関連するものを取り扱う。

★クラスサイズ：40～45名程度

「TBL 入門」 6/17 (金) 14:35-16:05

Key Points : ①チーム基盤型学習 (TBL) の経験
②振り返りの経験

○事前学習

予習資料を学習する。

○授業内容 (90 分 ; ◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク)

経過時間	内容	注意点・教材
5 分	◆導入 出席確認、本日の内容の確認	
10 分	●個人テスト 予習内容に関して個人テストを実施する。	
15 分	▲グループテスト 個人テストと同じ内容の試験をグループでディスカッションして解答する。解答はスクラッチカードで行う。	グループ (6~7 名)
15 分	◆フィードバック グループテストの解答に関して教員がフィードバックする。	
20 分	▲グループ課題 臨床で遭遇することの多い症例に関する問題を与える。臨床現場で遭遇することの多い解答がない症例の方が良い。	
15 分	◆フィードバック グループ課題に関して教員がフィードバックする。	
5 分	●振り返り 授業全体を振り返り、学んだこと、プレゼンテーションについての重要な点をまとめ、自己評価を行う。	
5 分	◆まとめ	

○事後学習

振り返り内容をまとめ、e ポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。(教員はコメントをフィードバックする)。

注釈

★*1 テーマに体験学習、または専門分野に関連するものを取り扱う。

★クラスサイズ : 40~45 名程度

「早期臨床学習：高齢者施設訪問（事前授業）」 10/6（木）13:00-16:30

授業概要：高齢者施設訪問を行うに当たり、「歯科衛生士として高齢者支援を考える」のテーマについてグループで討議し、授業の目的を明確にする。話し合ったことを整理し、発表資料としてまとめ、5分程度のプレゼンテーションを行う。

到達目標：高齢者施設訪問の目的を明確にするためにグループで討議し、内容について整理してプレゼンテーションすることができる。

Key Points：①学習目標の理解

②グループワークからの気づき

③効果的なプレゼンテーション

○事前学習

反転授業コンテンツ「プレゼンテーション力」を視聴する。

○授業内容（80分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆導入 本日の内容の確認	
10分	●個人による作業：与えられた高齢者施設訪問の事前学習に関する課題を遂行する。	個人ワーク用紙
30分	▲グループによる作業：3～4人を1班のグループとし、与えられた課題のコンテンツを作成する。	A4用紙7枚×5班、マジック
25分 (各5分)	▲グループによる発表：課題内容のプレゼンテーションを行う。	ルーブリック評価表を用いる (班全体の評価とする)。
10分	◆まとめ：授業全体を振り返り、学んだこと、到達目標についての重要な点を学生から導く ◆ふり返し用レポート用紙記載の説明、次回の授業の予告等	ふり返し用レポート用紙

○事後学習

ふり返し内容をまとめ、授業レポート用紙に記載し、担当教員に提出する。

○評価方法・基準（合格基準）

ルーブリック評価表を用いて評価する（内容の構成，姿勢，質疑応答）。

教員はプレゼンテーションに対するフィードバックを行う。

注釈：クラスサイズ：口腔保健学科 15名

「体験学習：歯科診療体験」 2年前期 4/22-7/15

- 到達目標：①大学病院の歯科医師の仕事を述べる。
 ②自己主導型学習（アクティブラーニング）を実践する。
 ③ 歯科医としての基本的マナーを守る。
 ④ 信頼関係を築くためにコミュニケーションスキルを実践する。
 ⑤ ホスピタリティ・マインドをもって他者と接する。
 ⑥ 個人情報保護について説明する。
 ⑦ 研究室，大学病院における感染防御について説明する。
 ⑧ 医療の中での歯科診療の役割を述べる。

- Key Points：①到達目標の理解
 ②相互の立場に立った経験と相手からのフィードバックによる気づき
 ③e ポートフォリオシステムによる自己評価と振り返り

○事前学習

本体験学習では、事前に臨床の現場に出るにあたり医療人としてのマナーを考える。また、個人情報保護や感染防御といった臨床の場で基本的に必要な知識を確認する。（課題資料を事前に配付する）。

○授業内容（3回の授業〈第2学年前期〉：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
1回目 60分×1 4/8（金）	◆導入「個人情報保護・感染防御について」 基本的な医療人としてのマナーと実習に望む心構えを説明し，個人情報保護や感染防御といった事項について講義を行い、臨床現場体験に備える。	事前学習の課題に関する資料
2回目 60分×1 4/15（金）	▲「歯科診療体験の目標を考える」 歯科診療体験で何を学ぶかをグループで討議し，グループ毎に実習の目標を設定する。	
事前学習	●病院のルール、個人情報保護や感染防御といった点について再度確認を行う。	
3回目 180分	「歯科診療体験」 ◆学生は、各診療科の担当教員について、診療室において現場を体験する。	4/22-7/15
授業外学修	●学生は臨床現場における自分の振る舞いを振り返るとともに、実際の診療の場を通して、感じたこと、考えたことを、各自まとめる。	
4回目 90分	▲振り返り 学生は、診療体験においての自分の反省・考察等	グループで話し合った内容は、文章にまとめ、e-ポートフォリオ

7. 歯学部

7/22 (金)	を基に、グループで話し合いを行う。	オに記入。教員はコメントをフィードバックする
----------	-------------------	------------------------

○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・e ポートフォリオシステムにて教員コメントの確認を行ったか、評価する。

注釈：クラスサイズ：歯学科 40 名程度

平成 28 年度 SIH 道場 薬学部 授業詳細

■ 目的

- 1) 徳島大学の新生が大学教育の意義を理解するとともに、自身の専門分野における先端研究を早期に体験することで、研究者・医療人としてのプロ意識を早期に構築する。
- 2) 学習の基本となる文章作成法、プレゼンテーション方法論、自己評価法を学び、それらの実践を通して大学教育に能動的に参加できる知識、技能、態度を身につける。
- 3) 医療現場で働く各専門職種を目指す学生が相互理解し、将来、ともに円滑なチーム医療を行える基盤を形成する動機付けを行う。
- 4) 医療人を目指す学生として何をすべきか、今後の学生生活で何を学び、修得していくべきかを、他学部、他学科の学生と共に考え、お互いから学ぶことを通して、チーム医療の重要性を認識する。

■ 到達目標

- (1) チーム医療の基盤を形成することができる
- (2) ノンテクニカルスキル（コミュニケーション力）を育成することができる。
- (3) 班員の意見をまとめて理論的に説明することができる。
- (4) チーム医療入門（蔵本地区合同ワークショップ）に積極的に参加し、他学部学生とコミュニケーションを取りながら、協力してプロダクトを作成できる協働力を養うことができる。
- (5) 将来の進路や方向性について考察し、大学における学習と関連させて説明することができる。
- (6) レポートの作成において、注意すべき点について説明することができる。
- (7) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を使うことができる。
- (8) 学習の振り返りや気づきを基に、今後の学修計画を立てることができる。

■ 成績評価

「チーム医療入門振り返りレポート」「ラーニングスキル・ルーブリック評価表」「プレゼンテーションプロダクト」をもとに評価する。

○「チーム医療入門振り返りレポート」

チーム医療入門で学んだこと、今後の学習の目標について、A4 用紙一枚（1000 字程度）にまとめる。

○「ラーニングスキル・ルーブリック評価表」

ラーニングスキル＜協働力＞ルーブリック評価表及び、ラーニングスキル＜プレゼンテーション力＞ルーブリック評価表については、チーム医療入門 WS でチューターから評価を受ける。

ラーニングスキル＜文章力＞ルーブリック評価表については、担当教員より評価を受ける。

○「プレゼンテーションプロダクト」

チーム医療入門 WS で他学部学生と協働して作成する。

【合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・体験学習について、すべて出席すること。（必須）
- ・「チーム医療入門振り返りレポート」について、指定項目が全て記載されていること。（必須）
- ・作成したプレゼンテーションプロダクトが添付されていること。（必須）
- ・「自分がポスター発表をしている様子」の動画へのリンクが付与されていること。（任意）
- ・その他、レポートに必要なだと思う内容。（任意）

8. 薬学部

■ 授業内容概略

早期体験学習として先輩の講演等を聴講する。また、チーム医療入門に参加し、他学部学生と協働してプレゼンテーションコンテンツを作成し、発表、討議する。

平成28年4月 5日 (火)	10:35～10:50	SIH 道場説明
平成28年4月 8日 (金)	8:40～ 9:40	講演「薬局で働く」
	13:00～15:00	講演「薬害について」
平成28年4月13日 (水)	8:30～10:45	「薬学の祖を学ぶ ～こころざし～」
平成28年9月30日 (金)	13:00～17:00	チーム医療入門ワークショップ

■ SIH 道場終了後に担当教員が行うこと

1) 担当クラスの学生が提出した「チーム医療入門振り返りレポート」「ラーニングスキル・ルーブリック評価表」「プレゼンテーションプロダクト」が合格基準を満たしているか確認する。

- ・不合格者には「再提出要求」を出す。
- ・合格者については、大学入門講座の単位を認定する。

2) 「SIH 道場実施報告書」の提出

- ・所定の様式に沿って作成・提出する。(様式は、Word 版、e ポートフォリオ版の2つがある)
- ・提出先は e ポートフォリオシステム上とする。

3) 学生の振り返りに対して、フィードバックする。

■ SIH 道場終了後にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

8. 薬学部

<体験学習（SIH 道場，チーム医療入門）>

○ 事前学習

- ・ビデオコンテンツ「SIH 道場とは」を視聴する。

○ 授業内容

日 時	経過 時間	内 容	備 考
4月5日（火） 10：35 ～10：50	10分	オープニング 出席確認、薬学部 SIH 道場説明	佐野 (授業設計コーディネーター)
4月8日（金） 8：40 ～9：40	60分	講演「薬局で働く」 (医療系)	薬学部非常勤講師
13：00 ～14：00	60分	講演「薬害について」 (薬学全般)	薬被連講師2名
4月13日（水） 8：30 ～8：45	15分	薬学の祖を学ぶ～こころざし～導入 長井長義簡易説明，ミニテスト	教務委員
8：45 ～10：45	120分	薬学の祖を学ぶ～こころざし～ (創薬系)	教務委員
9月30日（金） 13：00 ～17：00	240分	チーム医療入門（蔵本地区合同ワークシ ョップ）	チーム医療入門チューター

○ 事後学習

1. それぞれの体験学習について，感想・学んだこと等をまとめる。
2. 自分の将来の進路や方向性について考察し，大学における学習と関連づけ，まとめる。

<ラーニングスキル（チーム医療入門ワークショップ）>

○事前学修

1. 動画視聴：医療安全におけるノンテクニカルスキルの重要性（約15分）
2. 補助資料確認：動画内容理解を深めるための資料
3. KJ法：ワークショップで利用するKJ法の進め方

○授業内容（当日スケジュール）

- 12:20 受付
- 13:00 オープニングリマーク
オリエンテーション
- 13:20 基調講演「チーム医療への人間工学からの提言」
講師 小松原 明哲 先生（早稲田大学理工学術院教授）
- 14:10 質疑応答
- 14:20 ワーク会場へ移動
- 14:30 ワークショップ開始
- 16:00 成果発表
- 16:35 「SIH道場アンケート」記入など
- 17:00 終了・片付け

○事後学修

1. 「チーム医療入門振り返りレポート」の作成
2. 評価表による教員からのフィードバック

9. 社会基盤デザインコース

平成 28 年度 SIH 道場 工学部理工学科社会基盤デザインコース 授業詳細表

■目的：徳島大学の新生が大学における学習について理解するとともに、社会基盤に関する興味関心を喚起し、学習・研究に対する動機づけを行う。また、現状の社会基盤の課題に対する自主的な学習を通じて、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：

- (1) 社会基盤に関する概要を理解する。
- (2) 能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身に付ける。

■成績評価：課題発表およびレポートによって評価する。

【SIH 道場課題発表の内容】

以下の 1) ~ 2) を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。レポートは手書きでも構わないが、電子媒体での作成・提出を推奨する。

○課題の発表（能動的な学習の基本に対応）

- ・体験学習の成果を、期日までにチームで 1 枚のポスターにまとめて発表する。
- ・ルーブリックの「プレゼンテーション力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

【SIH 道場レポートの内容】

○体験学習個人レポート（文章力の目標に対応）

- ・体験学習で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に学んだこと（事後）、今後の目標の 3 点について A4 判 1 枚程度のレポートを作成する。
- ・ルーブリックの「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

【SIH 道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・課題発表において各グループ発表を行うこと。
- ・レポートに、社会基盤に関する概要がまとめられていること（必須）
- ・SIH 道場の収穫を 1 つ以上挙げて、説明すること。収穫が全くない場合は、その理由とどうすれば収穫が得られそうかを書くこと。（必須）
- ・その他、レポートに必要なだと思う内容（任意）

■授業内容（90 分）×8 回＋体験学習（詳細は次ページ）

<大まかな流れ>

体験学習を中心に、将来の仕事について考える。

- 1~2 回目 社会基盤に関する様々な分野の概要
- 3~7 回目 社会基盤施設の現状調査・見学

9. 社会基盤デザインコース

8～9回目 社会基盤施設の調査結果に対する整理・課題の発見・意見交換（グループワーク）

■8回目の授業後（SIH 道場終了後）に担当教員が行うこと

- 1) 担当クラスの学生が提出した「SIH 道場最終レポート」の添削
 - ・不合格者には「再提出要求」を出す。
 - ・合格者には点数をつける。（100点満点）
- 2) 「SIH 道場実施報告書」の提出
 - ・所定の様式に沿って作成・提出する。（様式は、Word版、eポートフォリオ版の2つがある）
 - ・提出先はeポートフォリオシステム上とする。
- 3) 他の担当教員の「SIH 道場実施報告書」の閲覧と相互コメント

■8回目の授業後（SIH 道場終了後）にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

9. 社会基盤デザインコース

【1・2回目】

日時：平成28年4月8日（金）12：50～15：00

場所：K402

○事前学習

1. ビデオコンテンツを見る（SIH 道場とは・文章の書き方の基本・プレゼンテーションの基本・チーム作業の基本（仮）。「SIH 道場とは」「チーム作業の基本（仮）」は必須。その他は2回目の開始前までに見る。

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 教員の自己紹介、出席確認、最終課題の確認、今日の課題の確認（グループ課題：理想的な仕事） 導入の最後に、事前課題をやっていない人が分かっていることを通告	授業内容ではなく、最終課題（SIH 最終レポートと合格基準）を説明する。
120分	◆教員からの各分野の概要の説明 ・土木分野の概要 ・建築分野の概要 ・質疑応答 ◆現場研修の概要、訪問先の説明、発表会の説明 ・訪問先の見どころ、見学のポイントの説明 ・見学会の内容についてのポスター発表会の概要説明	
5分	◆クロージング 次回の確認	

【3・4・5・6・7回目 現場見学の実施】

日時：平成28年4月16日（土）8：00～18：10

見学場所：脇町（うだつの町並み、ほたる館等）、NEXCO 現場（南唱谷トンネル等）、しらさぎ大橋

○事前学習

1. 現場見学についてのキーワードについて調べておく。

○授業内容（約半日；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

時間	内容	注意点・教材
10分	◆オープニング 教員の自己紹介、出席確認、現場見学での注意点について説明	授業内容ではなく、最終課題（SIH 最終レポートと合格基準）を説明する。
終日	●現場見学 学生は気づいたことをメモしながら現場見学を行う	

9. 社会基盤デザインコース

	(メモする視点を付与するなら、事前にワークシートを作成・配布するとよい)。	
5分	◆クロージング 点呼および諸連絡	

【8・9回目】

日時：平成28年5月13日（金）18:00～19:30（11,12講時）19:40～21:10（13,14講時）

場所：K407

担当教員：SIH道場コーディネータ（渡辺（健））

1年生クラス担任（上田，渡辺（公），馬場，河口），塚越，井上，尾野

○授業内容（90分×2 ◆レクチャー，●個人ワーク，▲グループワーク）

時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認，今日の課題の確認	進行：馬場
30分	◆プレゼンテーション技法を学ぶ ビデオコンテンツを見る ・内容の構成（約9分） ・姿勢（約7分） ・視覚資料（約7分） ・質疑	□ビデオ（プレゼンテーションの基本） 準備：渡辺（健）
65分	▲ポスター発表の準備・作成 机を移動し，班ごとに集まる。 4/16実施の現場研修について，班ごとに印象に残った点，よく理解できた点，今後の学習の参考になった点などについて意見をまとめ，ポスターを作成する。 ※1班6～7人程度で14班作成（2.参照）。 ※ポスターはポストイットに意見を書いて，模造紙上に貼り付け，分類分けしながらまとめるイメージ	□模造紙：14枚 □マジック：14セット □ポストイット：14セット □ガムテープ：4つ 準備：馬場（橋本学科長に問い合わせ，技術職員の方にお願い）
75分	▲ポスター発表と質疑応答 評価する教員がポスターを順に回る。	ポスターを壁に貼り，口頭にて説明をグループごとに行う。
5分	◆クロージング 最終課題（SIH道場最終レポート）の確認	

平成 28 年度 SIH 道場 工学部理工学科機械科学コース 授業詳細

■目的：徳島大学の新生が大学における学習について、理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：

- (1) 自身の専門分野における先端研究（現場）と大学における学習について、関連させて説明することができる。
 - ・ 社会生活の中で機械工学が果たしている役割の一端を理解する。
 - ・ もの作りの基本を理解する。
 - ・ プレゼンテーションの方法を修得する。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について 1 つ以上説明することができる。
 - ・ ディベートや実習において自らが果たした役割、反省点などを客観的に振り返る文章を書くことができる。
- (2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
 - ・ 事実に基づいて自らの主張を論理的に分かりやすく相手に伝えることができる。
- (2-3) 他者と協同して 1 つの課題に取り組むことができる。
 - ・ ディベートや実習で同じグループの学生と協働して準備作業を行うことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。
 - ・ ポートフォリオ等を利用して、振り返りを行うことができる。

■成績評価：「SIH 道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

【SIH 道場最終レポートの内容】

以下の 1) ～ 4) を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。レポートは手書きで作成する。

1) ポスター（協働力の目標に対応）

- ・ 体験学習の成果を、期日までにチームで 1 枚のポスターにまとめて写真を撮る。
- ・ ルーブリックの「協働力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

2) ポスター発表（プレゼン力の目標に対応）

- ・ 1) で作成したポスターをつかって、グループ以外のメンバーにチームの成果を説明する。
- ・ ルーブリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

3) 体験学習個人レポート（文章力の目標に対応）

- ・ 体験学習で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に学んだこと（事後）、今後の目標の 3 点について A4 判 1 枚程度のレポートを作成する。
- ・ 配付したルーブリックの「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

4) SIH 道場での収穫

■授業内容（日帰り研修＋機械科学実験1）

<授業スケジュール>

実施日時	内容
4月9日（土）10:00～17:00	SIH 道場の説明・授業の進め方・グループによるディベート（協働 力・プレゼンテーション力）・文章の書き方（文章力）
前期・機械科学実験1	体験学習及び振り返り（文章力・協働力）

■最終回の授業後（SIH 道場終了後）に担当教員が行うこと

- 1) 担当クラスの学生が提出した「SIH 道場最終レポート」の添削
 - ・不合格者には「再提出要求」を出す。
 - ・合格者には点数をつける。（100点満点）
- 2) 「SIH 道場実施報告書」の提出
 - ・所定の様式に沿って作成・提出する。（様式は、Word 版、e ポートフォリオ版の2つがある）
 - ・提出先は e ポートフォリオシステム上とする。
- 3) 他の担当教員の「SIH 道場実施報告書」の閲覧と相互コメント

■最終回の授業後（SIH 道場終了後）にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

【4月9日】

○事前学習

1. ディベートに関する情報・資料収集

○授業内容（集中講義；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

10：00 ●▲ディベート（詳細は次ページ）

11：45 交流会 昼食

12：50 全体セミナー①

◆レポートの書き方入門

◆卒業後の進路・就職について

◆充実した学生生活を送るために

14：20-14：35 休憩

14：35 全体セミナー②

◆カルト，悪質商法，薬物に関する基礎知識

◆大学での学習方法

◆パソコンの利用方法など

○事後学習

1. 添削されたレポートが返却されるので、各人はそれを見てレポートを修正・再提出。

新入生日帰り研修 ディベート入門

1. 概要

新入生合宿研修の懇談時間を用いて「ディベート入門」を行う。学生は当日までに資料を熟読し、ディベートのテーマに関するデータ収集を行っておくこと。今回は、各自、肯定・否定の両意見を箇条書きでまとめておくこと。**ディベート立論に必要なデータ収集を行っていない学生には「SIH 道場」の単位を認定せず、別途小論文の執筆等の特別課題を設定する。**

2. 進め方（時系列）

2.1 ディベートの概略説明（オリエンテーション時）

大学入門講座の時間に「ディベートとは何か」について説明し、ディベートのテーマについて紹介する。

2.2 ディベートの準備（全学生：オリエンテーション期間中）

与えられたテーマに基づいて、「肯定側」、「否定側」両方の立論を行うためのデータ収集を、合宿研修当日までに行う。

（「肯定側」、「否定側」の組分けはディベート当日に行うので、必ず「両方の」データ収集を行うこと。）

2.3 ディベートの実施（日帰り研修時）

4. ディベート

4.1 ディベートとは

ディベートの特徴は、つぎの3点に集約される。

- ①集会や議会等の公共的(public)な議論を行う場において、何らかの論点、課題について、
- ②対立する複数の発言者によって議論がなされ、
- ③多くの場合、議論の採否が議論を聞いていた第三者による投票によって判定される。

ここから、そもそもディベートというものが、一定の場面－公共的な意志決定－で行われるものであることが分かる。また、第三者を納得させるという論述ゲームとも言える。そのため、ゲームを成立させるためには幾つかの気をつけなければならない観点がある。

4.2 ディベートで必要になる技術や能力とは

ディベートに必要な(ディベートによって身に付く)能力・技術は、主に以下の4点とされている。

(1) 理解力

議論の大前提として、論題の背景を理解すること、相手の発言内容、意図を理解することが必要である。理解力には、相手の主張を適切に聞き取るリスニング能力、それをメモに取る技術なども必要となる。

(2) 分析力(批判的思考力)

まず、相手の主張内容を吟味して、その論証が十分な根拠を有しているか等を客観的・批判的に分析する能力が必要である。さらに、相手の主張と自らの主張との一致点と相違点を明確にし、相違点がなぜ生まれるのか

10. 機械科学コース

を分析し、自らの主張を正当化できる能力、また、これらの論理展開を可能とする知識を得るための調査能力も必要となる。

(3) 構成力

相手の論証が十分な根拠を有しているか、双方の主張の相違点と自らの主張の優位性をわかりやすく伝えるためには、自らの発言内容をわかりやすく、説得力ある構成をする能力が必要となる。構成力には、議論の組み立て方、並べ方、表現の選択、時間配分等を適切に行う能力も含まれる。

(4) 伝達力

どんなに優れた構成でも、早口で棒読みしたり、相手の理解を確かめもせずに一方向的にしゃべったりすると、その内容を関係者に伝えることはできない。関係者の判断を求める立場上、発言者は、自らの考えを関係者全てに効率よく判りやすく伝達するプレゼンテーション能力が求められる。

4.3 理想的なディベートを行うために

(1) 議論内容と人格(発言者の属性)の分離

ディベートで正しい理性的な判断を導くには、発言者の「人格」や社会的地位、年齢等の「属性」に頼った議論(例:「こどもが偉そうなことをいうな」、「大学教授が言うのだからそうだろう」)ではなく、「発言内容」「論拠」による判断が大事である。「誰が」ではなく、「何を」議論したのかを問う。

人格や属性に関する議論は、適切な結論を導き出すのに全く役立たないばかりか、感情的な対立を生み、合理的な判断ができなくなる原因にもなる。ディベートに限らず、どのような議論形態においても避けなければならない。

(2) 信念や思い込みによる事実誤認や偏向等の排除

公共的な問題に対しては多数の不特定第三者が関係するので、ディベートでは人格と議論の内容を分離し、客観的・論理的な根拠に基づいて議論を展開し、その根拠が覆されれば主張を撤回する論理性・客観性をトレーニングする。信念は人格を構成する大事な要素であるが、客観的な根拠や論理的な考え方によらない信念や思い込みに基づく議論は、事実認識を偏らせたり、感情的なやり取りを誘発して、適切な判断の障害となる。

4.4 ディベート進行表

1. (3分) 全体説明、および、肯定側チーム・否定側チームのグループ分け
2. (10分) 【作戦タイム】各グループで、各自収集したデータをどの様に使うか、どの様な順番で発表するか、立論のシナリオを検討する。
3. (5分) 肯定側チーム立論(全員が分担)
4. (3分) 否定側からの反対質問
5. (5分) 否定側チーム立論(全員が分担)
6. (3分) 肯定側からの反対質問
7. (10分) 【作戦タイム】両チームの立論、反対質問を受け、どの様に自分たちの議論を補強するのかについて検討する。
8. (4分) 否定側の最終弁論立論(代表者)

10. 機械科学コース

9. (4分) 肯定側の最終弁論立論 (代表者)
10. (3分) 【判決・コメント】

5. 平成28年度のディベートのテーマ
「学生生活にアルバイトは必要か否か？」

【前期：機械科学実験 1】

○事前学習

1. テキストを十分に読んで、作業の流れ、学習のポイントを事前にまとめる.

○授業内容（実習）

実際の各種機械に慣れ親しみ、その構成要素、機構、精度、性能などを調べることによって、機械工学や技術と機械との有機的つながりを考える。各種製品の製作を通して具現化の方法、図面の読み方などを体験学習する。これらを通じて機械工学の果たす役割を認識するとともにものづくりの素養を身につける。

安全についての考え方をまず取り上げ、工作機械類を使用したものづくり、ディーゼルエンジンとサーボモータの分解・組立・運転を実習するとともに、性能試験や材料試験を行い、これから学ぶ機械工学・技術の具現方法の一端を体験する。

1. ◆安全教育, 実習の概要
2. ▲NC プログラミング
3. ▲MC 工作機械によるマグネットチャッカーの製作
4. ●レポート作成
5. ▲八角リングを用いた荷重の測定
6. ▲溶接実習
7. ●レポート作成
8. ▲ディーゼルエンジン分解
9. ▲ディーゼルエンジン組立・運転
10. ●レポート作成
11. ▲汎用旋盤による引張り試験片の製作
12. ▲引張り試験
13. ●レポート作成
14. ▲サーボモータの分解・組立
15. ▲サーボモータの性能試験
16. ●レポート作成

◆学生は気づいたことをメモしながら体験学習を行う。

○事後学習

1. 各单元ごとにレポートを作成し、担当教員の指導を受ける。

平成 28 年度 SIH 道場 理工学部理工学科応用化学システムコース 授業詳細

■目的：徳島大学の新生が大学における学習について、理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：

- (1) 話題となっている科学技術あるいは社会的に重要な技術などについて理解し、大学での学習内容との関連を説明できる。
- (2) 大学 4 年間で取り組みたいことを文章で表現できる。
- (3) クラスメートの前で自己紹介できる。
- (4) 研修旅行にて協働で清掃活動など活動を行うことができる。
- (5) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■成績評価：「SIH 道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

【SIH 道場最終レポートの内容】

以下の 1) ~ 3) を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。

- 1) 研修旅行における協働作業（協働力、文章力の目標に対応）
 - ・協働作業を行い、その内容および感想を文章で表現する。
 - ・ループリックの「協働力」および「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 2) 自己紹介（プレゼン力の目標に対応）
 - ・自己紹介を行い、興味ある科学技術について説明する。
 - ・ループリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 3) SIH 道場での収穫

【SIH 道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・「自己評価」が記入された「協働力」「プレゼン力」「文章力」のループリックが添付されていること。(必須)
- ・研修旅行の内容が適切に表現されていること。(必須)
- ・自己紹介および、興味ある科学技術に対する考えが適切に表現されていること。(必須)
- ・SIH 道場の収穫を 1 つ以上挙げて、説明すること。(必須)
- ・その他、レポートに必要なだと思う内容 (任意)

11. 応用化学システムコース

■授業内容（90分）×5回＋体験学習（詳細は次ページ）

<大まかな流れ>

大学で自主的な学ぶ手段を身につけるとともに、将来の仕事について考える。

1. 大学で学ぶとはどういうことかについて考え、学ぶために必要な事柄を理解する。
2. 学習に必要な情報を検索する方法を理解する。
3. 学びのしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに学習支援室の上手な利用方法を紹介し、これからの4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。
4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを学ぶ。
5. 健康的に学生生活を送るために保健管理センターや、健康管理法などについて学ぶ。
6. コミュニケーションの取り方の向上を図り、学生と学生、学生と教員の相互理解を深める。

※各回の詳細は次ページ

■毎回の授業後に担当教員が行うこと

- ・担当クラスの学生が提出した「振り返りシート」の確認または一言コメント。

■全ての授業後（SIH 道場終了後）に担当教員が行うこと

- 1) 担当クラスの学生が提出した「SIH 道場最終レポート」の添削
 - ・不合格者には「再提出要求」を出す。
 - ・合格者には点数をつける。（10点満点）
- 2) 「SIH 道場実施報告書」の提出
 - ・所定の様式に沿って作成・提出する。（様式は、Word版、eポートフォリオ版の2つがある）
 - ・提出先はeポートフォリオシステム上とする。
- 3) 他の担当教員の「SIH 道場実施報告書」の閲覧と相互コメント

■全ての授業後（SIH 道場終了後）にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

11. 応用化学システムコース

【1回目】

○事前学習

moodle上の自習ビデオを閲覧する。テキスト「アクティブラーニング入門」の記載内容を理解する。

○授業内容（4月5日、90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	
15分	◆レクチャー 本コースの概要の説明を行う（15分）	
15分	◆レクチャー 教員の紹介を行う（15分）	
40分	◆レクチャー 大学で学ぶということについて説明する（40分）	
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、一言コメントと自己評価を振り返りシートに書く（5分）	評価視点：自己理解のルーブリック評価
5分	●クロージング 振り返りシート（全員）の提出	

○事後学習

1. 配付資料の復習、不明点の解明。

11. 応用化学システムコース

【2回目】

○事前学習

高校時代に身につけた学習方法、知識。

○授業内容（4月5日、90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	
30分	◆レクチャー 大学で学ぶ手段（40分）	
40分	●個人ワーク 高校での学習内容の振り返り（40分）	復習テスト
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、一言コメントと自己評価を振り返りシートに書く（5分）	評価視点：自己理解のルーブリック評価
5分	●クロージング 振り返りシート（全員）の提出	

○事後学習

1. 高校で使用した教材を使用し、不明点の解明。

11. 応用化学システムコース

【3回目】

○事前学習

moodle 上の自習ビデオを閲覧する。テキスト「アクティブラーニング入門」の記載内容を理解する。

○授業内容（4月6日、90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	
30分	◆レクチャー 情報機器および情報資源とその使用方法を説明（40分）	
40分	●個人ワーク 情報機器を実際に利用してみる（15分）	
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、一言コメントと自己評価を振り返りシートに書く（5分）	評価視点：自己理解のルーブリック評価
5分	●クロージング 振り返りシート（全員）の提出	

○事後学習

1. 配付資料の復習、不明点の解明。

11. 応用化学システムコース

【4回目】

○事前学習

高校までに身につけた生活習慣

○授業内容（4月6日、90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	
50分	◆レクチャー 大学での学びで重要となる教養教育院の説明（50分）	
25分	◆レクチャー 大学生活における健康管理および健康保険センターの説明（25分）	
5分	●振り返り 授業全体を振り返り、一言コメントと自己評価を振り返りシートに書く（5分）	評価視点：自己理解のルーブリック評価
5分	●クロージング 振り返りシート（全員）の提出	

○事後学習

1. 配付資料。

【体験学習の実施】

- ◆コース教員とともに研修旅行に参加し、清掃活動・地引き網などの協働作業を行う。学生は教員と懇談し、最先端の科学技術および研究内容について話し合う。
- ◆体験学習で学んだこと及び興味ある科学技術についての説明を含む文章を作成し、ルーブリック（文章力）で自己評価をした上で提出する。

○事後学習

SIH 道場最終レポートの作成と提出。

11. 応用化学システムコース

【5回目】

○事前学習

moodle 上の自習ビデオを閲覧する。テキスト「アクティブラーニング入門」の記載内容を理解する。

○授業内容（4月7日、90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	
70分	▲グループワーク グループに分かれて大学内を回り、各種施設の場所を確認する（70分）	
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、一言コメントと自己評価を振り返りシートに書く（5分）	評価視点：自己理解のルーブリック評価
5分	●クロージング 振り返りシート（全員）の提出	

○事後学習

1. 興味ある施設を再訪問し、その内容を詳細に理解する。

平成 28 年度 SIH 道場 理工学部理工学科電気電子システムコース 授業詳細

■目的：徳島大学の新生が大学における学習について理解するとともに、電気電子工学関連分野が社会においてどのように活用されているか、体験を通して興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：

- (1) 電気電子を受講する上で必要な数学・物理・化学等の基礎知識を理解し説明することができる。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。
- (2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。
- (2-3) 他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■成績評価：「SIH 道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

○「SIH 道場最終レポート」

以下の1)～4)を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。

1) ポスター（協働力の目標に対応）

- ・STEM（体験学習）の成果を、期日までにチームでポスターにまとめて写真を撮る。
- ・ルーブリックの「協働力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

2) ポスター発表（プレゼン力の目標に対応）

- ・1) で作成したポスターをつかって、グループ以外のメンバーにチームの成果を説明する。
- ・ルーブリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

3) 体験学習個人レポート（文章力の目標に対応）

- ・体験学習で実際に学んだこと（事後）、今後の目標についてA4判1枚程度のレポートを作成する。
- ・ルーブリックの「体験学習」に該当するすべての項目について、自己評価する。

4) SIH 道場での収穫

【SIH 道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・レポートに「ポスターの写真」が添付されていること。（必須）
- ・レポートに「体験学習個人レポート」が添付されていること。（必須）

最終回の授業後（SIH 道場終了後）に担当教員が行うこと

12. 電気電子システムコース

- 1) 担当の学生が提出した「SIH 道場最終レポート」の添削
 - ・不合格者には「再提出要求」を出す。
 - ・合格者には点数をつける。(100点満点)
- 2) 「SIH 道場実施報告書」の提出
 - ・所定の様式に沿って作成・提出する。
 - ・提出先は e ポートフォリオシステム上とする。
- 3) 他の担当教員の「SIH 道場実施報告書」の閲覧と相互コメント

■最終回の授業後 (SIH 道場終了後) にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

■授業内容：

<授業スケジュール>

実施日時	内容
4月8日(金) 10:25~11:55	SIH 道場の内容説明、Moodle 上のビデオコンテンツの使い方、講義の受け方、レポート(文書)の書き方(文章力)等について説明 ○事後学習:未視聴のビデオコンテンツを視聴
6月2日(木) 16:20~(予定)	○事前学習:Moodle によるビデオコンテンツ(プレゼン力、協働力、文章力)の視聴 プレゼンテーションの説明、STEM 演習(体験学習)で実施したテーマについて、班に分かれてプレゼンテーションの準備を行う ○事後学習:自宅において、未視聴のビデオコンテンツを視聴
6月16日(木) 16:20~17:50(1コマ)	STEM 演習(体験学習)で実施したテーマについて、班に分かれてプレゼンテーションを行う(プレゼン力、協働力) ○事後学習:学生は e ポートフォリオシステム上に、SIH 道場最終レポートを提出する。担当教員は SIH 道場最終レポートにコメントを付けて返却する(7月15日頃まで)。

平成 28 年度 SIH 道場 工学部理工学科情報光システムコース 授業詳細

■目的：徳島大学の新生が大学における学習について理解するとともに、情報工学、光工学、知能工学分野における先端研究の体験を通して興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：

- (1) 情報光コースにおいて取り組んでいる最先端の研究内容について説明出来る。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について説明することができる。
- (2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツールについて説明することができる。
- (2-3) 他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■成績評価：プレゼン内容，最終レポートにより評価する。

【SIH 道場最終レポートの内容】

以下の1)～3)を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。

- 1) 発表会（プレゼン力，協働力の目標に対応）
 - パワーポイントを用いて作成したスライド（メールまたは USB で提出）
 - ルーブリックの「協働力」に該当するすべての項目について自己評価する
 - ルーブリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について自己評価する
- 2) 研究室見学レポート（文章力の目標に対応）
 - 研究室見学報告書
 - ルーブリックの「文章力」に該当するすべての項目について自己評価する
- 3) SIH 道場での収穫

■ 授業内容：

新入生研修(4/9)で実施するもの

はじめに（SIH 道場の概要）、ブレインストーミングと KJ 法の講義、テクニカルライティングのビデオ視聴、チーム作り・ブレインストーミングの実習、テクニカルライティングの講義、グループワークのビデオ視聴、KJ 法の実習(1)

13. 情報光システムコース

日時・場所	内容
4月23日(土) 12:50-14:20 K206、K309、K407	KJ法の実習(2)とKJ法のまとめ (全員)
4月21日(木) 14:35-16:05 K206	プレゼンテーションスキル講義 (Aグループ)
4月26日(火) 12:50-14:20 創成学習スタジオ	プレゼンテーションスキル講義 (Bグループ)
5月10日(火) 12:50-16:05 創成学習スタジオ	発表会 (Bグループ)
5月12日(木) 14:35-17:55 K401	発表会 (Aグループ)

・テクニカルライティング、プレゼンテーションスキルでは、事前学習としてビデオ視聴を行う。講義内で、理解度テストを行い、自己採点后に説明を行う。

・ブレインストーミングとKJ法では、事前学習としてビデオ視聴を行う。講義では5-7人のグループに分かれ、グループのメンバーのバックグラウンドやスキル等を紹介しあった後、リーダーと書記を決める。与えられた大枠テーマ内で具体的なテーマ設定を行い、ブレインストーミングを行う。ブレインストーミングの結果をKJ方により整理する。得られた結論に対して、プレゼンテーション用のスライドの作成を行い、プレゼンテーションを行う

体験学習

受講者を2グループ(A,B)に分けて、

1回目～7回目 : Aは情報系を体験、Bは光系を体験

8回目～15回目 : Bは情報系を体験、Aは光系を体験

<情報系実施内容>

日付	場所	内容
4/20	6/15	C10
		情報系の説明・ガイダンス
4/27	6/22	C10
		研究室説明ダイジェスト(各研究室5分) 終了後レポート作成(20分)
5/11	6/29	各研究室
5/18	7/6	各研究室
5/25	7/13	各研究室
6/1	7/20	各研究室
6/8	7/27	各研究室
		毎週、班ごとに二つの研究室を訪問・見学する(30分 x 2回) 研究室見学終了後C10でレポート作成(20分)

13. 情報光システムコース

<光系実施内容>

B グループ			A グループ		
日付	場所	内容	日付	場所	内容
4/20	K309	光系ガイダンス もの作り体験 1	6/15	K309	光系ガイダンス もの作り体験 1
4/27	院 1,2	体験配属 1	6/22	K309	もの作り体験 2
5/11	K309	もの作り体験 2	6/29	院 1,2	体験配属 1
5/18	K309	もの作り体験 3	7/6	K309	もの作り体験 3
5/25	K309	もの作り体験 4	7/13	院 1,2	体験配属 2
6/1	院 1,2	体験配属 2	7/20	K309	もの作り体験 4
6/8	院 1,2	体験配属 3	7/27	院 1,2	体験配属 3

- ・もの作り体験：いくつかの光学現象に注目し，それを用いた器具等の作製や実験を行う
- ・体験配属：毎回，班ごとに二つの研究室を訪問し，見学・体験する（30分 x 2回）
見学終了後，院生研究室 1, 2（総合研究実験棟）でレポート作成（20分）

平成 28 年度 SIH 道場 工学部理工学科応用理数コース 授業詳細

■目的：徳島大学の新生が大学における学習について、理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：

- (1) 自身の専門分野における先端研究（現場）と大学における学習について、関連させて説明することができる。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について 1 つ以上説明することができる。
- (2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を 1 つ以上説明することができる。
- (2-3) 他者と協同して 1 つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■成績評価：成果発表を行うことと、「SIH 道場最終レポート」を提出してもらい以下の合格基準をもとに評価する。

【成果発表】グループで活動した研究室訪問で得た体験を元に各人が今後の学習目標を考慮し成果発表を行う。

【SIH 道場最終レポートの内容】A4 版 1 枚（指定レポート用紙有）

以下の 1) ～ 4) を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。

- 1) グループ活動について（協働力の目標に対応）
 - ・「協働力」について学んだことをまとめる。
 - ・グループ活動について振り返り自己評価する。
- 2) 成果発表について（プレゼン力の目標に対応）
 - ・「プレゼン力」について学んだことをまとめる。
 - ・成果発表会での各人の発表および他者の発表を振り返り自己評価する。
- 3) 研究室訪問個人レポート（文章力の目標に対応）
 - ・研究室訪問で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に学んだこと（事後）、今後の目標の 3 点についてレポートを作成する。
- 4) SIH 道場での収穫

【SIH 道場合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・プレゼンテーション資料が提出されていること。（必須）
- ・SIH 道場最終レポートが提出されていること。（必須）
- ・「自己評価」と「グループメンバーへの評価」が記入された「協働力」「プレゼン力」のルーブリッ

14. 応用理数コース

クが提出されていること。(必須)

・SIH 道場の収穫を1つ以上挙げて、説明すること。収穫が全くない場合は、その理由とどうすれば収穫が得られそうかを書くこと。(必須)

■授業内容（約90分）×9回（4月7日は前半と後半に分かれている）

<授業スケジュール>（詳細は次ページ）

実施日時	内容	会場	提出
4月5日（火）12:50～14:10	SIH 道場の説明・担当教員の紹介	K501	○
4月5日（火）16:20～17:50	高校学習の振り返り	K501	
4月6日（水）14:35～16:05	教養教育院について	創生学習スタジオ	○
4月7日（木）11:05～11:55	図書館の利用方法	創生学習スタジオ	
4月7日（木）12:50～13:40	図書館訪問と図書施設の利用体験	附属図書館（本館）	○
4月8日（金）12:50～14:20	研究室訪問ガイダンス	総科3号館スタジオ	
4月8日（金）14:35～16:05	グループによるディスカッション	総科3号館スタジオ	○
4月14日（木）12:50～14:20	グループによる研究室訪問（協働力）	総科3号館スタジオ	○
4月28日（木）12:50～14:20	グループによる資料作成（協働力）	総科3号館スタジオ	△
5月19日（木）12:50～14:20	成果発表会（プレゼンテーション力）	総科3号館スタジオ	◇

提出物：○ 振り返りシート、△ ルーブリック評価（協働力）、◇ ルーブリック評価（プレゼン力）と SIH 道場アンケート

■授業後に担当教員が行うこと（毎回ではなく指定された回のみ）

・担当クラスの学生が提出した「振り返りシート」と「ルーブリック評価」の回収。

■最終回の授業後（SIH 道場終了後）に担当教員が行うこと

1) 担当クラスの学生が提出した「SIH 道場最終レポート」の添削およびコメント

・不合格者には「再提出要求」を出す。

2) 「SIH 道場実施報告書」の提出

・所定の様式に沿って作成・提出する。（様式は、Word 版、e ポートフォリオ版の2つがある）

■最終回の授業後（SIH 道場終了後）にコーディネーターが行うこと

・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

14. 応用理数コース

【4月5日（火）12：50～14：10】K501、司会：三好先生、全担当者参加

振り返りシートの準備（約70部）中村先生

目標：SIH道場とは何かを理解する。

○授業内容（80分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
15分	◆オープニング SIH道場の詳細・振り返りシートの配布 教員の自己紹介、 最終課題・成績評価についての確認	各担当教員による自己紹介 授業内容ではなく、最終課題 (SIH最終レポートと合格基準) を説明する。
40分	◆SIH道場の説明 SIH道場の目的やスケジュールを説明する。事前課題やテキスト、eポートフォリオシステムの使い方、反転授業などを説明する。	SIH道場の目的とスケジュール等の説明（大沼） eポートフォリオシステム、moodleの使い方の説明（齊藤先生）
20分	▲グループメンバー確認 研究室訪問のグループメンバーの確認を行い、各グループで自己紹介する。	グループと担当教員の顔合わせ
5分	◆クロージング 振り返りシートの記入と提出	振り返りシートの保管（中村先生）

○事後学習

SIH道場の概要の理解、配布資料の復習。

14. 応用理数コース

【4月5日（火）16：20～17：50】K501、教務委員が担当

○事前学習

高校で学習した知識の整理

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
10分	◆オープニング 出席確認、高校学習の振り返り実施の目的説明	
20分	●高校学習振り返り（数学）	
5分		
15分	●高校学習振り返り（物理）	復習テスト（教養教育院）
5分		
30分	●高校学習振り返り（化学）	
5分	◆クロージング 翌日のスケジュール・持参物の確認 次回の目標の確認	翌日は履修登録を行う。 手引、時間割、シラバス全てを持ってくる。13：20に集合

次回の目標：教養教育院での学びのシステムを学ぶ。大学生活のための心と体の健康について学ぶ。

○事後学習

不明箇所の復習。

【4月6日（水）13：20～14：20】 K501 履修相談 教務委員が担当

- ・高校学習の振り返りの結果を伝える。（担当者）
- ・14：35～16：05の講義の振り返りシートを配布する。（教務委員）
- ・次の講義の目標の再確認。（教務委員）
- ・振り返りシートの回収は16：20から情報センターC,Dで行うことを伝える。（教務委員）

14. 応用理数コース

【4月6日（水）14：35～16：05】創生学習スタジオ、教務委員が担当

目標：教養教育院での学びのシステムを学ぶ。大学生活のための心と体の健康について学ぶ。

○事前学習

教養教育院の履修の手引を読む。

○授業内容（80分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆導入 概要説明	出席確認はしない
50分	◆レクチャー 教養教育院について	齊藤先生、渡部先生
25分	◆レクチャー 大学生活のための心と体の健康 (保健管理・総合相談センター)	
	◆クロージング web履修登録教室への誘導	

○事後学習

教養教育院の履修の手引および資料の復習。

【4月6日（水）16：20～17：50】 情報センターC,D 振り返りシートの回収（教務委員）

次回の目標：図書館の利用方法を学ぶ。 の提示（教務委員）

【4月7日（木）11：05～11：55, 12:50～13:40】午後から小野先生、蓮沼先生、西山先生

振り返りシートの準備（約70部）中村先生

目標：図書館の利用方法を学ぶ。

○授業内容（110分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆導入 概要説明	出席確認はしない
40分	◆レクチャー 図書館の利用方法	
	お昼休み	
5分	◆振り返りシートの配布	
50分	▲図書館訪問 図書館訪問と図書施設の利用体験	3グループに分かれて実施。
10分	●クロージング 振り返りシートの記入と提出	振り返りシートの保管（中村先生）

○事後学習

図書施設利用等の資料の復習。

14. 応用理数コース

【4月8日（金）12:50～14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：大沼、全担当者参加

振り返りシートの準備（約70部）中村先生

目標：研究室訪問の方法について学ぶ。グループでのディスカッション方法を学ぶ。

※研究室訪問の事前指導にあたる

○事前学習

ビデオコンテンツを見る（協働力に関する3つのビデオ教材）

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、振り返りシートの配布 概要説明	出席確認は各クラスの担当教員 協働力のルーブリックの提示
20分	◆レクチャー 研究室訪問ガイダンス	本日以外での訪問、本日の訪問 についての説明（三好先生）
20分	◆レクチャー 「協働力」のビデオを見る	ビデオ視聴後のクイズを実施 （齊藤先生）
45分	▲グループ活動 研究室訪問についての方針のディスカッション	模造紙とポストイットを配布 ポストイット（数理で用意） 模造紙13枚×2（自然で用意）

【4月8日（金）14:35～16:05】総合科学部3号館スタジオ、司会：大沼、全担当者参加

※グループによってはディスカッションを継続

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	出席確認は各クラスの担当教員 15:55に集合を告知
75分	▲グループ活動 研究室訪問についての方針のディスカッション または研究室訪問の実施	
5分	●振り返り グループでの活動を振り返る	
5分	◆クロージング 振り返りシートの提出、次回の授業の予告	振り返りシートの保管（中村先生）

○事後学習

研究室訪問で得た情報をまとめる。

14. 応用理数コース

【4月14日（木）12:50～14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：大沼、全担当者参加

振り返りシートの準備（約70部）中村先生

目標：研究室訪問による学んだことは何かをまとめる。

※研究室訪問

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 振り返りシートの配布 概要説明	14:10に集合を告知
75分	▲グループ活動 研究室訪問	
5分	●振り返り グループでの活動を振り返る	
5分	◆クロージング 振り返りシートの提出、次回までの課題の発表	課題：「プレゼンテーション力」のビデオを見て、クイズに答える

○事後学習

研究室訪問で得た情報をまとめる。

【4月28日（木）12:50～14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：蓮沼先生、全担当者参加

○事前学習

ビデオコンテンツを見る（プレゼンテーション力に関する3つのビデオ教材）

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 協働力のルーブリック評価の配布、 概要説明	14:10に集合を告知 プレゼンテーションのルーブリックの提示
75分	▲グループ活動 プレゼンテーション資料作成（手書き） A4版2枚まで	教員は適宜アドバイスを行う。
5分	●振り返り グループ活動を振り返る	協働力のルーブリック評価
5分	◆クロージング 協働力のルーブリック評価の提出、 次回の授業の予告等	

○事後学習

プレゼンテーション資料の作成および見直し。

14. 応用理数コース

5月6日（金）情報科学入門3回目、5月13日（金）情報科学入門4回目を使って、Wordの使用方法を学習し、4月28日に作成した手書きのプレゼンテーション資料をWordで作成する。必ずしも、プレゼンテーション資料はWordで作成しなければならないわけではない。

【5月19日（木）12:50～14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：大沼

○事前学習

グループでプレゼンテーション資料を完成させ、発表の準備をする。

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング プレゼンテーション力のルーブリック評価の配布 概要説明	
70分	▲、●成果発表	30分で前半、後半に分割 発表グループを入れ替える 評価視点：プレゼン力のルーブリック評価
10分	●振り返り 成果発表会の振り返り アンケートの記入	
5分	◆クロージング 最終課題（SIH道場最終レポート）の確認 終わりの挨拶 プレゼンテーション力のルーブリック評価の提出 アンケートの提出	最終レポートは6月2日（木）まで提出 提出先は教養教育院のレポートボックス

○事後学習

1. ビデオコンテンツを見る（文章力に関する4つのビデオ教材）
2. SIH道場最終レポートの作成と提出。

注) SIH道場最終レポートは【SIH道場最終レポートの内容】の4項目を書き込み出来るA4版1枚を提出。最終レポート用紙の作成担当は西山先生。

注) 応用理数コースSIH道場用のmoodleでのページの作成依頼担当は齊藤先生。

平成 28 年度 SIH 道場 生物資源産業学部 授業詳細

■目的：

生物資源産業学部の新入生に対する教育と研究に関する導入教育を行う。大学における学習の意義を理解し、自身の専門分野に関連した社会現場の学外研修（藍染体験、畜産研究所および種苗企業の見学）を通して、専門分野における興味関心を喚起し、生物資源産業学部の学習・研究に対する動機づけを行う。また、大学における学習・研究に対して学生が能動的に取り組むことができるように、能動的学習の基盤となる学習技術（文章力、プレゼンテーション力、協働力、振り返り力）習得のため、レポート作成、個人・グループ単位でのプレゼンテーションおよびKJ法を用いたワークショップを実施する。

■到達目標：

- (1) 自身の専門分野に関連がある社会現場と大学における学習について、関連させて説明することができる。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について 1 つ以上説明することができる。
- (2-1) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を 1 つ以上説明することができる。
- (2-3) 他者と協同して 1 つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■成績評価：以下の各項目について合格基準をもとに評価する。

- 1) 体験学習プレゼンテーション（プレゼン力の目標に対応）
 - ・学外研修の体験学習を通して学んだこと、得たことおよび感じたことなどについて発表を行う。
 - ・評価は、担当教員がルーブリック評価表（「プレゼン力」）で採点する。
- 2) 体験学習ポスター発表（協働力の目標に対応）
 - ・学外研修の体験学習を今後の学びにどう活かすのか、どう役立てるのかについてグループで議論し意見を集約して発表を行う。
 - ・評価は、担当教員がルーブリック評価表（「協働力」）で採点する。
- 3) 体験学習個人レポート（文章力の目標に対応）
 - ・学外研修の体験学習で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に現場で学んだこと（事後）、今後の目標などについて A4 判 1 枚程度（約 1000 字）のレポートを作成する。
 - ・評価は、担当教員がレポート内容をルーブリック評価表（「文章力」）で採点する。

【SIH 道場の合格基準】

以下の評価基準についての必須項目をすべて満たしていること。

- ・「体験学習プレゼンテーション」を行っていること。
- ・「体験学習ポスター発表」に参画し、討論および発表を行っていること。
- ・「体験学習個人レポート」を提出していること。

■授業内容（90分）×3回＋体験学習（詳細は次ページ）

<大まかな流れ>

学外研修を中心に実施し、専門分野についての理解を深める。

- 1回目：導入（SIH道場関連資料の使用法の会得）
 - 2回目：反転授業（ビデオコンテンツ）による事前学習
～専門分野の早期体験（学外研修：藍染体験、畜産研究所および種苗企業の見学）
 - 3回目：学外研修の事後学習（個人プレゼンテーション：プレゼン力の育成）
 - 4回目：学外研修の事後学習（KJ法とポスター発表：協働力の育成）
- 終了後：学外研修の課題提出（個人レポート作成：文章力の育成）

※3回目と4回目は同じ日に行う。

※各回の詳細は次ページ

■毎回の授業後に担当教員が行うこと

- ・eポートフォリオシステムを利用し、担当クラスの学生が提出した「振り返りシート」への一言コメント。コメントは、学外研修終了時、個人プレゼン終了時、ポスター発表終了時、課題レポート終了時の計4回。

■4回目の授業後（SIH道場終了後）に担当教員が行うこと

- 1) 担当クラスの学生が提出した「SIH道場最終レポート（体験学習個人レポート）」の添削
 - ・不合格者には「再提出要求」を出す。
 - ・合格者は「認定」の評価をつける。
- 2) 「SIH道場実施報告書」の提出
 - ・eポートフォリオ版の書式に沿って作成し、eポートフォリオシステム上に提出する。
- 3) 他の担当教員の「SIH道場実施報告書」の閲覧と相互コメント

■4回目の授業後（SIH道場終了後）にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

15. 生物資源産業学部

【1回目】（4月5日（火）14:35～16:05）

○導入、学外研修の事前学習

SIH 道場についての内容説明、情報機器と情報資源の使用法説明、Moodle 上のビデオコンテンツ（SIH 道場とは、e ポートフォリオ Mahara の使い方、プレゼンテーション力、協働力）の視聴。「SIH 道場とは」と「e ポートフォリオ Mahara の使い方」は必須。

○事後学習

学外研修実施場所（施設・研究所・企業）の事前調査、学外研修で学びたいと思うこと、などについて事前に考えておくように連絡する。自宅から未視聴のビデオコンテンツを視聴。

【2回目】（4月6日（水）12:50～14:20 履修登録時間内）

○学外研修の事前学習

情報機器の操作および関連する情報の登録、ビデオコンテンツ（プレゼンテーション力、協働力、文章力）を見る。「プレゼンテーション力」と「協働力」は必須。「文章力」は課題レポートの作成前までに見ておくように連絡する。

○事後学習

学外研修実施場所（施設・研究所・企業）の事前調査、学外研修で学びたいと思うこと、などについて事前に考えておくように連絡する。自宅から未視聴のビデオコンテンツを視聴。

【学外研修の実施】

○学外研修内容（4月7日（木）8:40～17:00）

研修場所：農林水産総合技術支援センター畜産研究課
 有限会社 竹内園芸
 藍住町歴史館 藍の館（藍染体験）
 あすたむらんど徳島（昼食場所）

学部定員を約35名弱ずつ3班（1、2、3）に分割し、バスで各施設を見学および体験
学生は気づいたことをメモしながら学外研修を行う。

研修行程計画表（統括責任者：松木 均、副責任者：宇都義浩）

1班（担当：音井威重、佐藤征弥）

工学部発 → 畜産研究課 → 昼食 → 竹内園芸 → 藍の館 → 工学部着

2班（担当：辻 明彦、小山保夫）

工学部発 → 竹内園芸 → 昼食 → 藍の館 → 畜産研究課 → 工学部着

3班（担当：中村嘉利、浅田元子）

工学部発 → 藍の館 → 昼食 → 畜産研究課 → 竹内園芸 → 工学部着

○事後学習

学生はeポートフォリオシステム上に、振り返りレポートを提出。担当教員は振り返りレポートにコメントを付けて返却する。

15. 生物資源産業学部

【3回目】（4月8日（金）8:40～10:10）

学外研修と同じ班に分かれ、3教室にて実施。班内の各個人がビデオコンテンツ（プレゼン力）を参考にして、体験学習を通して学んだことや感じたことなどについて班全員の前で1名ずつ1～2分間のプレゼンを行う。各班の担当教員がルーブリック評価表により採点する。

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点
5分	◆オープニング（内容説明）	
25分	●プレゼンテーション内容の検討	下書き用紙に記載
65分	●プレゼンテーション（1～2分間）	プレゼン力のルーブリック評価
5分	◆クロージング（総評）	

○事後学習

学生はeポートフォリオシステム上に、振り返りレポートを提出。担当教員は振り返りレポートにコメントを付けて返却する。

【4回目】（4月8日（金）15:00～16:30）

学外研修と同じ班に分かれ、3教室にて実施。班内を4～5名ずつの7～8班に分けて、ビデオコンテンツ（協働力）を参考にして、体験学習を今後の学びにどう活かすのかについてKJ法による集団討議を行う。討議結果についてのポスターを製作し、各班の代表者が議論内容をまとめて2～3分間で発表する。各班の担当教員がルーブリック評価表により採点する。

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点
5分	◆オープニング（KJ法の説明）	
15分	●カードの作成	各自最低3～4枚に記入
15分	▲カードの島作りと自由討論	同意見、異意見の分類
15分	▲カードの島のまとめと名称付け	意見間の関連性チェック
10分	▲発表のためのまとめ	発表者の決定
25分	▲発表（2～3分＋若干の討論）	協働力のルーブリック評価
5分	◆クロージング（総評） 体験学習個人レポートの作成と提出について	レポート締切日等の諸連絡

○事後学習

学生はeポートフォリオシステム上に、振り返りレポートを提出。担当教員は振り返りレポートにコメントを付けて返却する。

【SIH道場終了後の課題】

学生はeポートフォリオシステム上に、SIH道場を総括した内容の課題レポート（体験学習個人レポート）を締切日までに提出。担当教員は課題レポートにコメントを付けて返却する。

16. 医療教育開発センター 平成 28 年度 SIH 道場 医療教育開発センター 授業詳細 「医・歯・薬学部合同 チーム医療入門ワークショップ」

- 目的：1) 医療現場で働く各専門職種を目指す学生が相互理解し、将来、ともに円滑なチーム医療を実践できる基盤を形成する動機付けをはかる。
- 2) 医療人を目指す学生として、今後の学生生活で何を学び、習得していくべきかを、他学部、他学科の学生と共に考え、お互いから学ぶことを通して、医療人としてのプロフェッショナルリズムの醸成をはかる。

■到達目標：

- ① 他者と協力して、テーマについて討議（意見交換）し、プロダクトを作成できる。
- ② 医療安全と質の向上に必要とされることを討議することができる。
- ③ 今、自分達ができること、今後の学習のあり方について討議することができる。
- ④ グループで討議した結果をほかのグループにプレゼンテーションできる。

Key words

チーム医療、Inter-professional education（IPE；専門職連携教育）、コミュニケーション、協同力

■成績評価：

以下の1)～3)に基づいて、グループワークにおける協働力およびプレゼンテーション力のルーブリック評価、振り返りレポートによる文章力のルーブリック評価を行う。

1) チーム医療入門ワークショップへの参加

医療現場で活躍している専門家の講演を聴講した後に、他学部・学科学生との混合グループで協働してテーマに沿ってプロダクトを作成する。さらにして、そのプロダクトについてグループ間でプレゼンテーションと討議を行う。

2) 「リフレクションシート」の作成

チーム医療入門ワークショップへの参加について、自らを振り返り、今後の学習について考える。

3) 「振り返りレポート」の作成

「チーム医療入門」に参加して、学生自身が学んだこと、また今後の学習に関する目標について、A4用紙1枚（約1000文字）にまとめる。

【SIH道場レポートの合格基準】

以下の3つの評価基準をすべて満たすこと。

- 1) チーム医療入門ワークショップに参加すること。
- 2) リフレクションシートを提出すること。
- 3) グループワークにおける協働力とプレゼンテーション力のルーブリック評価で合格すること。
- 4) 振り返りレポートを提出し、そのルーブリック評価で合格すること。

*ルーブリック評価での合格基準は、各観点での評価尺度で（c）がひとつまでとする。

16. 医療教育開発センター

■ワークショップ概要

開催日時：平成 28 年 9 月 30 日 13:00～17:00

会場：大塚講堂（1F 大ホール、2F 小ホール）、保健学科 C 棟、総合研究棟

対象：蔵本地区（医学部、歯学部、薬学部）1 年生 440 名

方法：医療安全に造詣の深い小松原明哲先生（早稲田大学 理工学術院教授）の講演「チーム医療への人間工学からの提言」を聴講し、医療安全について学修する。それに続いてテーマ「医療安全と質の向上に向けて今、私達にできること」に沿ってグループワーク（ディスカッション）を行い、プロダクト作成・発表・討議する。

タイムスケジュール：

12:30 受付

13:00 全体オリエンテーション

- ・挨拶 医歯薬学研究部副研究部長 河野文昭先生
- ・ワークショップ・スケジュール説明

13:20 講演「チーム医療への人間工学からの提言」

講師：小松原明哲先生（早稲田大学 理工学術院教授）

14:20 各ワーキング会場に移動

14:30 グループワーク開始

- ・アイスブレイキング（自己紹介）
- ・役割（司会、時計、発表）分担を学生で決める。
- ・ワークショップ作業開始：KJ法により、模造紙1枚にプロダクトを作成。

16:00 小グループ発表

- ・1会場3班でグループ発表（発表5分＋質疑3分）
- ・全体討論5分（学生が司会）
- ・チューターのコメント、振り返り・フィードバックを行う

16:45 まとめ

- ・学生はSIH道場アンケート記入
- ・チューターはアンケート記入

17:00 学生作業 終了 解散

17:10 チューター反省会（スキルスラボ5、6）

*チューターはティーチングポートフォリオ入力（10月7日まで）

事前学習

1. 動画視聴：医療安全におけるノンテクニカルスキルの重要性
2. 補助資料：動画内容理解を深めるための資料
3. KJ法：ワークショップで利用するKJ法の進め方

事後学習

- 1) 振り返りレポートの作成・提出
- 2) eポートフォリオシステムで、ルーブリック評価（協働力、プレゼン力）の確認。

SIH道場 プログラム設計評価シート

1. 総合科学部

※ 学生のeポートフォリオ、成果物、教員のeポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応	
早期体験	① 設計した到達目標を学生は達成することができた	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい	絵画作品を「デスカリブレーション」の方法により客観的に記述するという目標は、おおむね実行された。提出された記述は、事前に学習したルールに則ったもので、巧みな文や詳細な文量も見られた。このプログラムは、専門分野の早期体験というより文化を総合的に体験し、視覚イメージを文字化する汎用技能養成という点に重点が置かれている。総合科学部における専門分野は非常に多岐にわたるため、全体向けにその早期体験をさせることは困難であるという理由による。	昨年度実施の状況から、事前学習でのプログラムの意義を丁寧に説明した。また、午前中にクラスタ別の活動時間を長く確保すること、鑑賞や記述作業にゆとりを確保した。昨年度は引継ぎを担当した教員が全ての提出物をチェックしたが、今年度は引継ぎの教務委員、学生委員が担当した。チェックポイントによって量にはばらつきが生じた。	オリエンテーション期間中、美術館という学外での活動を盛り込むことに体験学習としての意義がある。学生にはプログラムの目的を事前に説明し、大学での友人づくりの機会になるような楽しいムーブメントを演出することが重要と思われる。デスカリブレーションは、学生の得手不得手があったり内容にばらつきがあるが、成績評価の対象としていない。ただし、教員がチェックしたものを返却することでモチベーションが高まるので、そのプロセスを維持した上でスムーズなやりとりを検討すべきであろう。	
	② 設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるといった効果的だった	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい				
	③ 学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい				
	④ 設計した到達目標を学生は達成することができた	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい		1) 「総合科学入門講座」で各回課されるレポートとトータルによって、文章力の向上を図った。学生が提出したレポートは学術的な文章として未熟なレベルにあるが、学生へのアンケート回答(記述)によると、理由や根拠を示しながら論理的に考えて文章を書くことの重要性は十分理解されたと判断される。学術的な文章に求められる条件について例を挙げて解説すること、学生が書いた文章を教員が丁寧に添削・コメントすること、文章力の向上に必須であると考えられる。	1) 「読書レポート」を新しく担当する教員を確保していく必要がある。その一方、これまで取り組んできたノウハウを継承し、安定的に運用していくことが求められる。両方のバランスを考えたチームづくりを早めに着手し、実施方法について検討するようしたい。	
	⑤ 設計したアクティブラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい		2) 「総合科学入門講座」では授業用のウェブページを作成し、毎回の授業ファイルを確認して復習の便宜を図ったほか、資料前学習にも利用した。LMSを使用して事前にダウンロードして参加する前学習にも利用した。LMSを使用せずとも独自のウェブページ活用で学習効果が高めることが示されたと言えらる。	2) 毎週180名分のレポートを添削する必要があるが、労力の面から考えると紙媒体での提出・返却より、ファイル形式でのやりとりの方が効率が図れるかもしれない。また、受講者が書いたレポートや教員のコメントをウェブ上で公開し参加者が読み合える仕組みを作ることで、大人教員に欠けがちな相互性を高めることができるかもしれない。	
	⑥ 学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい				
	⑦ 学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい				
ラーニングスキル 文章力	⑧ 設計した到達目標を学生は達成することができた	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい	昨年度は前期開講の「基礎ゼミナール」でブレゼン力と協働力(「課題発見ゼミナール」(定員15名)で12クラス)を新設し、実践的な学習スキルでのトレーニングをおこなう。それぞれ担当教員の得意なテーマで授業内容を計画し、7月初旬に「総合科学入門講座」の授業枠を併せて予告をおこない、学生の希望をもとにクラス分けをおこなった。これは夏季休業期間を使った活動を可能にするための措置であった。学生層や授業時間割に縛られず柔軟な運用を認めることで、学外での体験学習を含む多様な取り組みが展開されている。	1) 改組計画時のカリキュラム設計段階では「課題発見ゼミナール」の担当教員の選び方を十分検討する余裕がなかったことから、現に担当する教員の意識にはやや温度差があるように感じられる。各教員の工夫と裁量による多様性を保ちながらも、12クラスで一つの授業として共通の到達目標を確認し、なるべく質の統一を図ることが必要であろう。	各クラスの担当教員の個性や工夫を尊重することと、授業としての統一性を担保することは相反する面があるが、担当教員の間で情報共有の場を増やしていくことが望まれる。	
	⑨ 設計したアクティブラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい				
	⑩ 学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい				
	⑪ 学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい				
	⑫ 設計した到達目標を学生は達成することができた	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい		同上。特にグループによるレポートやブレゼンテーションのピア評価を採用した担当教員が複数いて、客観的な視点の養成などの点で効果的であったことが報告されている。また、グループワークで導入したことと、そうでなかった昨年よりも積極的に取り組む学生が増えたことと報告された。ルーブリックに関しては、独自の評価シートを作成した意欲的な担当教員もいた。	同上。左記の問題に関しては、ほぼ1ヶ月ごとにメンバーをシャッフルしたり、グループ内の役割を入れ替えたりする方法を採用したクラスがあり、これが参考になる。	
ラーニングスキル 協働力	⑬ 設計したアクティブラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい				
	⑭ 学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい				
	⑮ 学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい				
	⑯ 振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい		1) 授業の振り返りには、各回の内容に関する短期的な振り返りと、授業全体の成果に対する振り返りがあがる。また、「総合科学入門講座」では、毎回の授業冒頭で前回の授業で課したレポートの講評を行った。また、最終回の授業では、「これまでの授業のまとめと問題提起」をレポートとして提出させ、それをもとにディスカッションを行った。	振り返りを実践してその効用を実感してもらうことが目的であるならば、必ずしもeポートフォリオを使用する必要はないのではないか。そういう点から見れば、今回用いた左記のような方法でもよいと思われる。個々の授業の振り返りに関しては、基礎ゼミナールの担当教員の中に、今後そのためのシートを用意してやってみたいとの希望もあった。全体的にその難形を作っておいて、希望する教員に必要な変更を加えてもらって使用してもらおうという方法も考えられる。	
	⑰ 各授業(体験を含む)の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい		2) 今年度はSIH道場の文章力養成の部分について、後者の振り返りシートを学生に配布・回収し、必要に応じてPDF化したファイルがMoodleにアップした。学生と教員のやりとりが記録に残ることだけでなく、教員が他の担当者のコメントや学生の感想を読むことができて、相互チェック機能が高まり授業改善に資することができると考えられる。	振り返りを必要と思われ。	
振り返り	⑰ 各授業(体験を含む)の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい				
	⑱ 学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい/どちらともいえない/いいえ 設計してはい	改組に伴う新しいカリキュラムの下で実施することになったため、前期の授業では早期体験と文章力に関する内容が中心となった。受講後の学生アンケートによると、「体験学習で専門分野に対する関心が高まった」に対する肯定的な意見が82%、「レポート等の学術的な文章を書く必要に十分な準備や基本的なルールを理解した」については94%と、非常に高い評価を得ていることから、目標はほぼ達成されたと判断できる。	1) 初年度教育のうち、入学直後の時点で主体的な学修への意識転換を促すことは特に重要であると考えられる。実際の授業の構成の都合上、多数の教員の協力によるオムニバス形式で行わざるを得ないが、オムニバス形式では、学生が多様な視点を得られるメリットがある。教員の参加意識や責任感がやや薄くなる難点がある。そこで、オムニバス形式の授業を有意義なものとするために、(1)担当教員の間で授業の目的に関する認識を共有したうえで、その目的に対して合理的なプログラムを設計すること、(2)担当教員が各科目の中で自分の担当回りの位置づけを十分に理解して授業を行うことの2点が重要である。	SH道場プログラムでは成果を急ぐあまり短期間にさまざまな内容を詰め込んだ結果、年間を通じてバランスや一貫性への配慮が不足している面がある。「SIH道場(大学入門講座)」は履修登録・友達作りなどの文章の書き方の基礎(講義)を学び、「総合科学入門講座」で文章の書き方の実践(毎回のレポート)及び総合科学部での研究教育の紹介へと接続関係を一層明確化すべきである。中心のクラスが混在しており統一性の確保が難しいが、学期末に各クラス合同による公開発表の場を設ける、また担当教員同士が事前に協議や情報共有を行う場を設けるなど、目標を共有するたための努力が必要と思われ。	
総合		④ 3・2・1				

平成28年度SIH道場プログラム設計評価シート

医学部 医学科

2. 医学科

※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考にして記述してください。

要素	項目	チェック	平成27年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応	
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	具体的な説明の前に、プロフェッショナルリズムを考えるワークを取り入れた双方向性の授業を行った。診療現場指導教員にこのプログラムの趣旨を十分に事前説明した。	実施後アンケートでは学生の満足度は非常に高かった。	診療現場体験の時間が短い。診療現場体験が大学病院に限定されている。	診療現場体験は大学病院での時間数を増やし、さらに学外医療機関での実習を追加する。	
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい					
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい					
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	文章作成のポイントについて事前に学生に説明した。グループ評価における観点の「出典表示など」は観点から削除した。	経験を振り返ることを目的とした文章の作成を行うことができた。ただし、文章力については学生の個人差が大きい。	文章力の育成について系統的な学修が必要である。	科学的文章作成についての授業を実施する。	
	⑤設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
ラーニングスキル プレゼンカ	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい					
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	半数程度のグループでは、ワークの最初にアイスブレイクとして、自己紹介する程度であったが、残りの半数では、各自の早期臨床体験学習について短い分程度のプレゼンとそれに対する30秒程度の質疑を各人が行い、お互いに評価・フィードバックした。	グループワークで作成したプロダクトをもとに発表する機会を体験できたが、時間的制約のため全員に行うことは困難であった。	学生全員が何らかの形でプレゼンテーションする機会を設けることが必要である。	グループワークの最初に学生各自が自分の診療現場体験についてプレゼンテーションすることを徹底する。	
	⑨設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
ラーニングスキル 協働能力	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい	司会が消極的な学生に発言を促すことや、班のメンバー全員が他の学生の発言に配慮する等、グループデザインセッションの方法についての事前説明を行った。	KJ法を活用したグループワークの手法を学ぶことができた。	グループワークの進め方についての準備教育を行ったり、自分たちが行ったグループワークそのものを振り返ることが必要である。	グループワークの進め方についての授業を行う。グループワークの最後に自分たちが行ったグループワークそのものを振り返る機会を設ける。	
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい					
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい					
振り返り	⑬設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい					
総合	⑯振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい	振り返りについての説明を学生に行なった。レポートは教務委員や学術支援センター教員が閲覧した。	振り返りワークショップおよび振り返りレポートの作成により、経験を振り返って一般化・概念化し、次の活動に活かしていくサイクルを学ぶことができた。	さらに深い振り返りを実施するに際しては、その重要性と意義を学ぶ準備学習が必要である。	振り返りの重要性・意義を含めて経験学習についての授業を行う。	
	⑰各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい					
	⑱学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい					
⑲実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成28年度の授業設計は、4. 概ね十分であった。3. 5. 十分であった。4. 概ね十分であった。3. 5. 十分であった。1. 不十分であった。	5	4	3	2	1	早期臨床体験実習とアクティブ・ラーニングを有機的に組み合わせたプログラムを実施することができ、経験から学ぶ力を修得する第一歩となった。	早期体験、文章作成、協働作業、プレゼンテーション、振り返りの各パーツが有機的に連動する工夫が必要である。

※その他、他の授業との接続、発展内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。

平成28年度SIH道場プログラム設計評価シート

医学部 医科栄養学科

※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	平成27年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない	指導教員へのプログラムの趣旨を十分に説明するという前年度の課題に対し、医科栄養学科教員へのPDを行い、プログラムの趣旨を理解していただいた。	早期体験学習で専門分野の興味関心が高まったと回答する人が「とても当てはまる」を合わせると92%、体験学習が専門科目の学修において役に立っているとしたものが「とても当てはまる」、「どちらか」としては「ま」を合わせると89%であり、ほとんどの学生にとっても、体験学習が専門分野の理解や学修に役立ったと考えられる。	9月30日午前に実施した早期研究室体験に、時間通り集合できなかつた学生が多数いたため、学生への周知を改善する必要がある。	実施日の前日にも事務から真合時間のアナウンスをしてもらう。
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい どちらともいえない 設計していない				
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい どちらともいえない 課していない				
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない	到達目標の再設定と共に、明確な基準の説明が必要と前年度の課題であったが、設定目標の問題ではないと考えた。	文章を書く際の準備や基本的なルールを理解したと回答している人が「とても当てはまる」、「どちらか」としては「ま」を合わせると68%であり、概ね理解ができているようであるが、3割の学生には十分伝わっていない。その後、夜に立っているとしたものも、約半数であった。	SIH道場による学修の仕組みについての学生への説明が必要。入学時にオリエンテーションを行うのも、実際に実施するのが9月末では間に空きすぎる。	SIH道場による学修の仕組みについての学生への説明を、事前に行う。
	⑤設計したアクティブラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 課していない				
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 課していない				
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい どちらともいえない 課していない	全員が発表できる機会を作る方向で検討するという前年度の課題があったが、検討した結果、SIH道場の時間だけでは物理的に不可能となつた。上位学年で実施しているもので十分ではないが、	プレゼンテーションを効果的に行うために必要な準備・姿勢・資料を理解したと回答する者が、「とても当てはまる」、「どちらか」としては「ま」を合わせると87%であり、学修効果があつたと考えられた。	特になし。	特になし。
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない				
	⑨設計したアクティブラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない				
ラーニングスキル 協働能力	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 課していない	次年度も、学生や社会のニーズに合ったテーマが必要という課題に対してに対し、医療教育開発センターで適切な課題を設定していた。	全ての学生が、他者と協力して取り組む際の留意点を理解したことは「どちらか」としては「ま」あるいは「どちらか」としては「ま」と回答している者も合わせて89%に達しており、学修効果があつたと考えられる。	特になし。	特になし。
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい どちらともいえない 課していない				
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない				
ラーニングスキル 協働能力	⑬設計したアクティブラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない	教員のフィードバックを全体で共有することが検討課題に挙げていたが、検討の結果、負担が大きいの現状では難しい。	学修を振り返ることの重要性を理解したと回答する者が、「とても当てはまる」と「どちらか」としては「ま」を合わせると96%であった。また、日頃から振り返りを行っている学生が73%であつたことから、学修効果があつたと考えられる。	特になし。	特になし。
	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 課していない				
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい どちらともいえない 課していない				
振り返り	⑯振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい どちらともいえない	できるだけ多くの教員に参加してもらうようという課題に挙げていたが、今回、振り返りレポートに加え、各分野で早期研究室体験に参加してもらったことができて、より多くの教員にSIH道場のプログラムに参加してもらったことができた。	SIH道場のプログラム満足度は、「とても当てはまる」と「どちらか」としては「ま」を合わせると89%。その後役に立っているとしたものも合わせて83%であった。	学生に対する説明が不十分な点があるため、改善する。	学生に対する説明が不十分な点があるため、改善する。
	⑰各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい どちらともいえない				
	⑱学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい どちらともいえない				
総合	⑲実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成28年度の授業設計は、4割が到達目標を達成するために、5.十分であった、4.割が十分であった、3.ふつう、2.やや不十分であった、1.不十分であった。	5 4 3 2 1				

※その他、他の授業の接続・発展内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。

平成28年度SIH道場プログラム設計評価シート

医学部 保健学科 放射線技術科学専攻

5. 放射線技術科学専攻

※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	平成27年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応	
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () 設計していない ()	定時講義枠を木曜6講時に設けることにより、短期研究室体験の定期的時間を確保出来るようになった。	研究室に複数の学生を短期研究室配属させて体験学習を行った。前期末にクラス全体の短期研究室体験報告会を実施した。学生のリアクションの内容から、汎用的技能を獲得できただけでなく、大学における今後の学習において「専門的知識を深めたい」「研究を行いたい」等の感想が得られ、学生の動機付けとしての有効性が確認できた。	配属研究室によって学習内容の水準にばらつきがあり、「難しく感じる学生も少なからずあり、そのように感じる学生を如何に減らすか、担当教員間で改善策を検討する。	配属研究室によって学習内容の水準にばらつきがあり、「難しく感じる学生も少なからずあり、そのように感じる学生を如何に減らすか、担当教員間で改善策を検討する。	
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい () どちらともいえない () 設計していない ()					
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい () どちらともいえない () 課していない ()					
	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () 設計していない ()	前年度とほぼ同じ取り組みを実施した。	短期研究室体験における指導を通して文章力向上を図った。	短期研究室体験は、早期の動機付けが目的であり、学生の評価は意図して選けたが、来年度以降の導入に関しては教員間での議論は行いたい。	学生の評価の必要性や評価法については、教員間での議論を実施する。	
	⑤設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () 設計していない ()					
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () 課していない ()					
	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい () どちらともいえない ()					
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () 設計していない ()	定時講義枠を木曜6講時に設け、短期研究室体験報告会での発表を想定し、パワーポイントを用いて、発表の演習を行った(6月期に4回実施)。	6月期の発表演習、および短期研究室体験報告会に向けての発表準備や発表を通じ、学生のプレゼン力を向上させることができた。	短期研究室体験は、早期の動機付けが目的であり、学生の評価は意図して選けたが、来年度以降の導入に関しては教員間での議論は行いたい。	学生の評価の必要性や評価法については、教員間での議論を実施する。	
	⑨設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () 設計していない ()					
	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () 課していない ()					
ラーニングスキル プレゼンカ	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい () どちらともいえない ()					
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () 設計していない ()	前年度とほぼ同じ取り組みを実施した。	短期研究室体験およびチーム医療入門ワークショップで協働作業を体験させた。学生のリアクションの内容から、グループ単位で実施した実験や討論を通して、課題解決のための協働力の重要性を多くの学生が認識できていたことが確認できた。	短期研究室体験は、早期の動機付けが目的であり、学生の評価は意図して選けたが、来年度以降の導入に関しては教員間での議論は行いたい。	学生の評価の必要性や評価法については、教員間での議論を実施する。	
	⑬設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () 設計していない ()					
	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () 課していない ()					
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい () どちらともいえない ()					
	⑯振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい () どちらともいえない ()					
	⑰各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい () どちらともいえない ()					
	⑱学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい () どちらともいえない ()					
	⑲実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成28年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつう、2.やや不十分であった、1.不十分であった。	5 () 4 () 3 () 2 () 1 ()					
	⑳その他の授業との接続・発展内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。						
総合							

平成28年度SIH道場プログラム設計評価シート

医学部 保健学科 検査技術科学専攻・コース

※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	平成27年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応	
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	SIH道場を開始する前に再度、検査技術科学専攻におけるSIH道場の目的・実施の流れとそれの対応について理解させるための時間を取った(SIH関連ビデオの書き方、ルーブリックなど)を説明し、今後の授業内容を理解させた。	学生は、「先輩からのメッセージ」および「先輩からのメッセージ」の授業を聞き、医療での臨床検査の役割や重要性を知り、将来の進路を考え、今後の学習設計ができたと考えた。	「大学院のすすめ」についての授業アンケートを実施する。	検査技術科学専攻でのSIH道場の授業項目「先輩からのメッセージ」「大学院のすすめ」を今後も継続する。	
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい	予めビデオコンテンツ「文章力」の視聴を指示した。さらに補足として、一部ビデオコンテンツによる説明、レポートの書き方、ルーブリックについて時間を取って授業内容を理解させた。「先輩からのメッセージ」を聞いて、「将来像を描く」のレポート作成で、自分の将来を十分に考えるための時間を少し長く設定した。	「先輩からのメッセージ」を聞いて、将来像を描くレポートを作成した。また、レポート作成に各学生が感じたことを十分に考察し、将来像が表現できていた。また、基本的な文章が作成できていた。教員は提出されたレポートを評価し、学生へフィードバックした。	今年度は、レポートを提出締切日を少し長くとした。次年度については、レポート作成については事後の学習(ビデオコンテンツの視聴など)をできるように改善する必要がある。	今年度と同様に、「先輩からのメッセージ」を聞いて、「将来像を描く」のレポート課題を継続していきたい。また、事前または事後の学習への対応を考える。	
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい	④設計した到達目標を学生は達成することができた	⑤設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	⑥学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	今年度と同様に、保健学科新入生研修ワークショップ>およびチーム医療入門での取り組みを継続する。事前または事後の学習への対応を考える。
ラーニングスキル 文章力	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	特になし。	4月9日の保健学科新入生研修ワークショップ>および9月30日の学生と医療入門において、他専攻の学生と共にグループワークを行い、グループでの意見をまとめプレゼンテーションができていた。また、他グループのプレゼンテーションを見て、各自が内容を理解し、評価ができていたと思う。	事前学習として、ビデオコンテンツ「プレゼンテーション」の視聴を指示していたが、十分な学生がいたため、今後の改善が必要である。	今年度と同様に、保健学科新入生研修ワークショップ>およびチーム医療入門での取り組みを継続する。事前または事後の学習への対応を考える。	
	⑨設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	⑩設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	⑪学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	⑫学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	今年度と同様に、保健学科新入生研修ワークショップ>およびチーム医療入門での取り組みを継続する。事前または事後の学習への対応を考える。	
	⑩学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい	⑪学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	⑫学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	⑬設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	⑭学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	今年度と同様に、保健学科新入生研修ワークショップ>およびチーム医療入門での取り組みを継続する。事前または事後の学習への対応を考える。
ラーニングスキル プレゼン力	⑬設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	特になし。	4月9日の保健学科新入生研修ワークショップ>において、他専攻の学生と協力しながらワークを行い、グループでの意見をまとめプレゼンテーションができていた。また、他グループのプレゼンテーションを見て、各自が内容を理解し、評価ができていたと思う。	事前学習として、ビデオコンテンツ「プレゼンテーション」の視聴を指示していたが、十分な学生がいたため、今後の改善が必要である。	今年度と同様に、保健学科新入生研修ワークショップ>およびチーム医療入門での取り組みを継続する。事前または事後の学習への対応を考える。	
	⑭学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい	⑮設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	⑯学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	⑰学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	今年度と同様に、保健学科新入生研修ワークショップ>およびチーム医療入門での取り組みを継続する。事前または事後の学習への対応を考える。	
	⑮設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	⑯学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	⑰学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	⑱設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	⑲学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	今年度と同様に、保健学科新入生研修ワークショップ>およびチーム医療入門での取り組みを継続する。事前または事後の学習への対応を考える。
協働能力	⑯設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	保健学科の時間割にSIH道場のための時間を割り振った。SIH道場の一部の授業について説明などとその時間を使用した。	振り返りの意義についてテキストの時間を確保し、説明を促した。一部の内容については、教員がフィードバックを行った。	各授業についてフィードバックを行うための時間を余裕が必要である。4月の入学時に集中してこれらの授業内容を学ぶことは重要であるが、もう少しゆとりを持つことも必要であると思われる。	今年度、時間割にSIH道場のための時間を割り振った。この時間の有効な使い方を考える。	
	⑰学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい	⑱設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	⑳学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	㉑学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	今年度と同様に、保健学科新入生研修ワークショップ>およびチーム医療入門での取り組みを継続する。事前または事後の学習への対応を考える。	
	⑱設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	㉒設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	㉓学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	㉔学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	今年度と同様に、保健学科新入生研修ワークショップ>およびチーム医療入門での取り組みを継続する。事前または事後の学習への対応を考える。	
振り返り	⑲振り返りの意義や方法について、学生に説明する。またはテキストの利用などで理解を促した	はい	⑳振り返りの意義についてテキストの時間を確保し、説明を促した。一部の内容については、教員がフィードバックを行った。	㉑振り返りの意義についてテキストの時間を確保し、説明を促した。一部の内容については、教員がフィードバックを行った。	㉒振り返りの意義についてテキストの時間を確保し、説明を促した。一部の内容については、教員がフィードバックを行った。	今年度、時間割にSIH道場のための時間を割り振った。この時間の有効な使い方を考える。	
	⑳各授業(体験を含む)の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい	㉓振り返りの意義についてテキストの時間を確保し、説明を促した。一部の内容については、教員がフィードバックを行った。	㉔振り返りの意義についてテキストの時間を確保し、説明を促した。一部の内容については、教員がフィードバックを行った。	㉕振り返りの意義についてテキストの時間を確保し、説明を促した。一部の内容については、教員がフィードバックを行った。	今年度、時間割にSIH道場のための時間を割り振った。この時間の有効な使い方を考える。	
	㉑学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい	㉒振り返りの意義についてテキストの時間を確保し、説明を促した。一部の内容については、教員がフィードバックを行った。	㉓振り返りの意義についてテキストの時間を確保し、説明を促した。一部の内容については、教員がフィードバックを行った。	㉔振り返りの意義についてテキストの時間を確保し、説明を促した。一部の内容については、教員がフィードバックを行った。	今年度、時間割にSIH道場のための時間を割り振った。この時間の有効な使い方を考える。	
総合	㉒実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成28年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、5.十分であった。4.概ね十分であった。3.ふつう。2.やや不十分であった。1.不十分であった。	5	5	4	3	2	1
	※その他、他の授業との接続・発展内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。	はい	⑳振り返りの意義についてテキストの時間を確保し、説明を促した。一部の内容については、教員がフィードバックを行った。	㉑振り返りの意義についてテキストの時間を確保し、説明を促した。一部の内容については、教員がフィードバックを行った。	㉒振り返りの意義についてテキストの時間を確保し、説明を促した。一部の内容については、教員がフィードバックを行った。	㉓振り返りの意義についてテキストの時間を確保し、説明を促した。一部の内容については、教員がフィードバックを行った。	㉔振り返りの意義についてテキストの時間を確保し、説明を促した。一部の内容については、教員がフィードバックを行った。

平成28年度SIH道場 プログラム設計評価シート

薬学部 共通学科

※学生のレポートフォルダ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、レポートフォルダを参考に記述してください。

8. 薬学部

要素	項目	チェック	平成27年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応	
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	早期体験の実施前に反転授業コンテンツ「SIH道場とは」を視聴を完了することができた。96%の学生が「SIH道場の目標を理解して学修を行った」と回答している(前年度85%)。	入学後の早期体験として専門分野に関する講演等を聴講することで、創薬研究者や薬剤師として働くことと具体的なイメージを形づくることができ、学修意欲が向上した。なお、97%の学生が「体験学修で専門分野に対する興味関心が高まった」と回答している(前年度91%)。	特になし	今年度と同様、早期体験実施前に事前学習が完了するように留意する。	
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ					
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ					
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ		チーム医療入門のレビュー、感想、問題提起、課題解決提案、まとめ等がバランス良く記載されており、ルーブリック評価の観点からも、全体的に文章力が向上がうかがわれる。72%の学生が「レポート等の学術的文章を書く際に必要な準備や基本的なルールを理解した」と回答している(前年度76%)。	特になし	医師薬合同で次年度に向けて議論する。	
	⑤設計したアグレイブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ					
	⑥学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ					
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ		チーム医療入門は医師薬合同で行ったため個々の学生についての評価は不明であるが、レポートやプロダクト、アンケート結果内容から、全体的にプレゼン力の向上がうかがわれる。88%の学生が「プレゼンテーションを効果的にこなすために必要な準備・姿勢、資料を理解した」と回答している(前年度93%)。	特になし	医師薬合同で次年度に向けて議論する。	
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ					
	⑨設計したアグレイブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ					
ラーニングスキル 協働能力	⑩学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ					
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ					
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ					
振り返り	⑬振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ					
	⑭各授業(体験を含む)の前後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ					
	⑮学生が振り返り内容について教員がフィードバックを行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ					
総合	⑯実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成28年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、(5-十分であった、4-概ね十分であった、3-ふつう、2-やや不十分であった、1-不十分であった)。 ※その他、他の授業との接続・発展内容・授業運営等の課題があげられたらお書きください。	5 ④ 3 2 1					

平成28年度SIH道場プログラム設計評価シート

理工学部 理工学科 社会基盤デザインコース ※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

9. 社会基盤デザインコース

要素	項目	チェック	平成27年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応	
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> 設計していない <input type="radio"/>	合宿研修を通じて早期体験を行っているが、今回は合宿の内容に関して「訪問先の見どころ、見学のポイントの説明」を実施した。	アンケート結果より、コースにおける専門分野の動機づけが十分に達成できたといえる。	建設現場が少なくなくっており、近場での見学場所の確保が重要となる。	適切な見学場所の設置	
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> 設計していない <input type="radio"/>					
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> 課していない <input type="radio"/>					
	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> 設計していない <input type="radio"/>		今年より、レポートの提出の際に、ルーブリックによる基準を明確にした。	アンケート結果は若干向上しているものの、おおよそ昨年と同様であった。	ビデオ学習、反転授業を利用したい。	ビデオを利用した反転授業の確実な実施
	⑤設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> 設計していない <input type="radio"/>					
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> 課していない <input type="radio"/>					
	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/>					
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> 設計していない <input type="radio"/>		今年、e-learningシステムにあるプレゼンテーションに関するビデオをSIH道場の時間内に視聴させた。	事前のビデオ学習により、理解が深まったと思われる。	SIH道場内で見せたビデオを、事前学習として各自に視聴させたい。	ビデオを利用した反転授業の確実な実施
	⑨設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> 設計していない <input type="radio"/>					
	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> 課していない <input type="radio"/>					
ラーニングスキル	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/>					
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> 設計していない <input type="radio"/>	今年より、現場見学会の後に、班ごとにもポスター発表を実施することにより、班員との協働時間が長くなるようになった。	アンケート結果は同等であったものの、学生および教員からの評判はよかった。学生のキャリアクターや、どのような物事を見ているかを教員が理解するのにポスター発表は有効であると感ずる。	ポスター発表はうまくいったといえるので、今後も継続して実施する。班を指導する教員が若干不足がみられ、指導・評価者についてはTAの活用も含めて検討する。	実施方法については今年の方法を踏襲する。 指導・評価者についてはTAの活用も含めて検討する。	
	⑬設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> 設計していない <input type="radio"/>					
	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> 課していない <input type="radio"/>					
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/>					
協働能力	⑯振返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/>	今年から始めたポスター発表、およびレポートにより、全体の振り返りを促している。	振り返りについては、学生たちに必ずしも浸透していない可能性が、アンケートから伺える。	振り返りの時間を、SIH道場内で設ける。	適切な振り返りの方法を検討する。	
	⑰各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/>					
	⑱学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい <input checked="" type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/>					
振り返り	⑲実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成28年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつう、2.やや不十分であった、1.不十分であった。	5 4 3 2 1	前年度と比較し、現場見学の意義について学生に認識されることのできた。また、現場見学の内容をポスター発表させることにより、プレゼンテーション力、協働力の必要性を認識させることができたと思われる。	SIH道場プログラムそのものに対する理解が向上していたと思われる。	「SIH道場」という授業名が、何をやっているのか十分にいくという意見がある。伝え方に工夫が必要である。	・SIH道場の説明を工夫する。 ・適切な振り返りの方法を検討する。 ・協働力についての評価方法について、ルーブリックの活用などを検討する。	
	総合						

※その他、他の授業との接続、発展内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。

平成28年度SIH道場プログラム設計評価シート

理工学部 理工学科 機械科学コース

※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	平成27年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応	
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	実験の説明段階で、機械工学のどの分野へ応用されている技術かを説明するようになった。	機械加工、エンジン等の分解・組立・運転、材料試験等の実習及びレポートの作成・指導を通じ、目標とした「社会生活の中で機械工学が果たしている役割の一端を理解する。」及び「もの作りの基本を理解する。」を達成できたものと考えられている。	ドライバなどの基本工器具を使用したことがない回答した学生が増加している。機械・知識があるため小学生までに体験すべき事項も修得できていない前提で体験学修を行う必要があるのかもしれない。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい					
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい					
	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい		文章力の向上に関しては、平成27年度と同様に、研修時に担当教員から別途指導を行った。実験レポートにおける文章力の指導においては教員からのフィードバックを実施する必要がある。	研修の時間枠内で、資料を用いながら論理的な文章の書き方に関する指導を行った。その指導に基づき、研修を含めた大入念講義全体の振り返りを行なった。詳細基準としてルーブリックも学生に配布した。ほとんどの学生が注意点を評価点を意識した文章を書いた。また、内容についても到達目標である「自ら振り返る文章を書くことができる。」をほとんどの学生が満足できた。	レポートの採点を1年担任個人で行ったが、ルーブリックを用いても評価にはばらつきが生じる。そのため、ルーブリックの改善が必要と感じている。また、学生へのフィードバックの仕組みを構築する必要がある。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。ただし、レポートの課題については本年度と別のものとする。
	⑤設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい					
ラーニングスキル 文章力	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	H27年度はディベートの初日に題目を与えていたが、本年はオリエンテーションの初日に課題設定を行い、内容について十分予習できる時間を設けた。またディベートとは何かについても十分説明を行った。	オリエンテーション初日にディベートの区分け、ディベートの方法・評価基準及びテーマの説明を行った。オリエンテーション2日目自らの発想を時間枠内でディベートを行うべく、その結果、柔軟ながらも自らの主張を論理的に相手に伝えようとする能力の至らなさを生感し、悔し涙を流す学生もいた。また、第2回目のディベート後の教員からの講評をもとに、多く見られた。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。ディベートのテーマについては2年間同じとしたもので、来年度は別のものとする。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	
	⑨設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい					
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい					
ラーニングスキル 協働能力	⑬設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	ディベートの区分けならびに実施方法については昨年度と同様である。	意見の集約や論理組立等のディベートの準備を学生に体験させることができた。また、事後の自己評価からも他人との意見の合わせが重要であることを多くの学生が認識していた。したがって、一定の効果があったと考えられる。	同上	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	
	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい					
	⑯振り返りの意義や方法について、学生に説明する。またはテキストの利用などで理解を促した	はい					
	⑰各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい					
振り返り	⑱学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい	実験レポートにおいて振り返りを実施を指示した。実験レポートにおいて振り返りを行っている学生が何人かいたが周知があまり出来ていなかった。	レポートの作成・評価やディベート後の講評を通じて振り返りは習慣化が重演であるため、専門課程まで学年が進んだ時点で振り返りの習慣の有無及び成績で学修効果と判断する他ない。そのため、現時点では学修効果の有無は言及できない。	振り返りの意義や方法についての説明時間確保が必要であるが、現状では非常なタイトなスケジュールでオリエンテーションが実施されている。そのため、オリエンテーションの時間配分を見直し、不要と思われる行事を削減する必要がある。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	
	⑲実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成28年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、3.十分であった。4.概ね十分であった。3.ふつう。2.やや不十分であった。1.不十分であった。	5	数年は同様の内容を継続実施する必要があると考え、総合的には昨年度の実施体制と特に大きな変化は無い。	平成28年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するためにおおむね十分であったと言える。	ルーブリックの再設計 ・オリエンテーション日程の再検討 ・ディベート事前準備時間の確保 ・体験学習レベルの再検討	ルーブリックの再設計 ・オリエンテーション日程の再検討 ・ディベート事前準備時間の確保 ・体験学習レベルの再検討	
総合		5 4 3 2 1					

※その他、他の授業との接続・発展・発展内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。

平成28年度SIH道場プログラム設計評価シート

理工学部 理工学科 応用化学システムコース

※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考にして記述してください。

要素	項目	チェック	平成27年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応	
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし	アンケートにおいて「目標を理解している」と回答した学生が94%、プログラムに満足した学生が90%であった。②③については具体的な効果は不明であるが、大学での学習に役立つという意見が90%近くになっているため、一定の効果があると考えられる。	特になし	これまでのプログラムを踏襲する。	
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい () どちらともいえない () いいえ () 課していない ()	特になし				
	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	⑤設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 課していない ()	特になし				
	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	⑨設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 課していない ()	特になし				
ラーニングスキル 文章力	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	⑬設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 課していない ()	特になし				
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑯振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑰各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑱学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑲実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成28年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつう、2.やや不十分であった、1.不十分であった。	5 () 4 () 3 () 2 () 1 ()	特になし				
	※その他、他の授業との接続・発展内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。						
ラーニングスキル プレゼン力	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	②設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	③学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 課していない ()	特になし				
	④学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑤設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	⑥設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	⑦学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 課していない ()	特になし				
	⑧学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑨振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑩学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
ラーニングスキル 協働能力	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	②設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	③学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 課していない ()	特になし				
	④学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑤設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	⑥設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	⑦学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 課していない ()	特になし				
	⑧学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑨振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑩学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
振り返り	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	②設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	③学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 課していない ()	特になし				
	④学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑤設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	⑥設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	⑦学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 課していない ()	特になし				
	⑧学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑨振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑩学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
総合	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	②設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	③学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 課していない ()	特になし				
	④学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑤設計した到達目標を学生は達成することができた	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	⑥設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 設計していない ()	特になし				
	⑦学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい () どちらともいえない () いいえ () 課していない ()	特になし				
	⑧学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑨振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				
	⑩学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい () どちらともいえない () いいえ ()	特になし				

平成28年度SIH道場プログラム設計評価シート

理工学部 理工学科 電気電子システムコース

※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

12. 電気電子システムコース

要素	項目	子エッセ	平成27年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	い	い	い	い
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい	い	い	い	い
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい	い	い	い	い
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	い	い	い	い
	⑤設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	い	い	い	い
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい	い	い	い	い
ラーニングスキル プレゼンカ	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい	い	い	い	い
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	い	い	い	い
	⑨設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	い	い	い	い
ラーニングスキル 協働能力	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい	い	い	い	い
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい	い	い	い	い
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	い	い	い	い
振り返り	⑬設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	い	い	い	い
	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい	い	い	い	い
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい	い	い	い	い
総合	⑯振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい	い	い	い	い
	⑰各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい	い	い	い	い
	⑱学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい	い	い	い	い
	⑲実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成28年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつう、2.やや不十分であった、1.不十分であった。}	5	4	3	2	1
	※その他、他の授業との接続・発展・発展内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。					

平成28年度SIH道場プログラム設計評価シート

理工学部 理工学科 情報システムコース

※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

13. 情報システムコース

要素	項目	チェック	平成27年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	「情報システムセミナー」内で、情報系と光系の両方の専門分野を体験できるようにした	学生アンケートの「体験学習で専門分野(学科)での学修・研究」に対する興味関心が高まった」において、高まったと回答した学生は76%に達した。また感想でも研究を知れてよかったとの意見が多く、十分な効果があつたと考えられる	情報系と光系の多岐にわたる研究分野に関する事前学習を講ずることができなかつたので、この点を改善したい	事前学習のための資料などを準備する
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい				
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい				
	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい		ビデオ教材を用いた事前学習を実施した。文章力に関する講義を実施後に、提示したテーマについての自分の考えをレポートとして提出してもらい、その内容についての評価を実施した	事後に提出されたレポートについて、自己評価をしてももたらした結果、多くの学生が十分なスキルを身につけていた。アンケートの「レポートなどの学術的文章を書く際に必要な準備や基本的なルールを理解した」において、理解したと回答した学生は83%であった	大人数のレポートに対するフィードバックの方法や、評価方法を検討する
	⑤設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい				
	⑥学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい				
	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい				
ラーニングスキル 文章力	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	グループでの発表を実施し、全員が話すようにした。教員、学生による質疑応答も行った。発表内容についての評価を実施した	アンケートの「プレゼンテーションを効果的に行うために必要な準備・姿勢・資料を理解した」において、87%の学生が理解したと回答した。また学習した内容が役に立っていると回答した学生は74%であった	発表練習をしていないグループが多かった。	スライド作成の経験が少ないので、参考となるサンプルを提示できるように準備する 発表会までには発表練習ができるようにスケジュールを調整する
	⑨設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい				
	⑩学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい				
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい				
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい		ビデオ教材を用いた事前学習を実施した。	アンケートの「1つの課題に対して、他者と協力して取り組む際の留意点を理解した」において、理解したと回答した学生は88%であった。また感想でも今後役に立つという意見が多かった	特になし
ラーニングスキル 協働性	⑬設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい				
	⑭学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい				
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい				
振り返り	⑯振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい	一部の講義において、講義後すぐに振り返りの時間を設けた	アンケートの「学修(体験)を振り返り、この重要性を理解した」において、理解したと回答した学生は74%であった		eポートフォリオを用いたレポート提出方法を検討する
	⑰各授業(体験を含む)の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい				
	⑱学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい				
総合	⑲実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成28年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつう、2.やや不十分であった、1.不十分であった。	5 4 3 2 1	情報系と光系で昨年実施した内容の良い部分を融合した方法で実施した。	アンケートの「ラーニングの重要性を理解した学生が84%に達した	時間的に空きがなく、講義間が空いたり短くなったりしたので、スケジュールをうまく調整したい	振り返りを効果的に実施する
	※その他、他の授業との接続・発展内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。					

平成28年度SIH道場プログラム設計評価シート

理工学部 理工学科 応用理数コース

※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考にして記述してください。

14. 応用理数コース

要素	項目	チェック	平成27年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応	
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	当コースは今年度が初年度であるため、参考となる過去の資料はない。	・研究室訪問の方法を学べた。 ・自分がやりたい分野が少し広がった。 ・1年次から、専門科目について意識するようになった。	・1グループを5名か6名にしてグループでの研究室訪問を試みたが訪問中に興味のない研究室ばかりを訪問した学生もいた。	・研究室訪問する研究室に関して一人一つは興味のある研究室へ訪問出来るようにする。また、どちらの系の研究室も訪問するように指導する。	
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい					
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい					
	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい		同上	・学んだことをまとめること。	・ビデオコンテンツを見られる機器の確認をする。 ・レポート作成のためのアカデミック・ライティングを意識した指導が必要。	
	⑤設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい					
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい		同上	・相手に分かりやすく伝える方法を学んだ。 ・Wordを使った資料作成方法を学んだ。 ・人前で発表するときの困難点を理解することができた。 ・ブレゼンのためのポスターの作成方法を学べた。	・ブレゼンは練習会なしで実施した。そのため時間への配慮がない発表が多かった。時間を守る指導も必要。 ・ビデオコンテンツを見られる機器の確認をする。	
	⑨設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
ラーニングスキル ブレゼンカ	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい					
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	同上	・協働するためのルールを身につけた。 ・チームワークの重要性について学べた。 ・グループディスカッションの方法を学べた。	・KJ法についての概略は説明したが具体的な進行に関しては説明不足であったので各ステージでの具体的な進行を説明する。	・KJ法の進行方法のガイダンスを行う。出来ればビデオコンテンツ等での実際の進行方法を見る機会があるといい。	
	⑬設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい					
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい		同上	・講義の最後に当日の講義内容を振り返ることにより講義で学習したことの理解が深まった。	なし	
	⑯振りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい					
	⑰各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい					
	⑱学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい		同上		なし	
	⑲実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成28年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつう、2.やや不十分であった、1.不十分であった。	5	4	3	2	1	
	総合						

※その他、他の授業との接続・発展内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。

平成28年度SIH道場プログラム設計評価シート

医・歯・薬学研究部医療教育開発センター

※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考にして記述してください。

16. 医療教育開発センター

要素	項目	チェック	平成27年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた ②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった ③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった ④設計した到達目標を学生は達成することができた ⑤設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった ⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった ⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確に行なった ⑧設計した到達目標を学生は達成することができた ⑨設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった ⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった ⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確に行なった	① どちらともいえない いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	授業当日に、約1時間程の講演を外部講師に依頼している。この方法は継続する予定である。	テーマに適した講演の出来る外部講師を検討する。
		② どちらともいえない いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。
		③ どちらともいえない いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。
		④ どちらともいえない いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。
		⑤ どちらともいえない いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。
		⑥ どちらともいえない いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。
		⑦ どちらともいえない いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。
		⑧ どちらともいえない いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。
		⑨ どちらともいえない いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。
		⑩ どちらともいえない いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。	文章力、プレゼン力、協働力はSIH道場の他の資料の準備に時間がかかった。このため、事前学習の学生への通知が遅くなった。事前学習を余裕を持って取り組むために早い段階での準備が必要であったと考えている。
振り返り	⑬ 振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	⑬ どちらともいえない いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	チューターを担当者への事前説明が、担当者のマニュアルと、説明会で用いたスライドが完全に一致しておらず、分かりにくく、冗長であった点を改善する。	チューター担当者のマニュアルを整理し、説明会はマニュアルを用いて行い、ダブルスタンダードとならないように気を付ける。
	⑭ 学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	⑭ どちらともいえない いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	SIH道場以前からの経験で、ワークショップで参加者全員が活性化される人数が5-6名であったため、各班5-6人になるように設定していた。欠席者が出たため4人の班が出来た。出来れば、5名以上になるような工夫がいと考えられる。	本年度参加予定学生440名と大人数でワークショップを行う場所も分かれているため、具体的な対応は直ちに思いつかない、今後の課題と考えている。
	⑮ 学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確に行なった	⑮ どちらともいえない いいえ	変更は特にしていない	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	基本的には、本年と同様に医・歯・薬学部合同で行う。ワークショップの目的を明確に伝えるよう事前説明などのブラッシュアップを行う。
	⑯ 振り返りの内容を振り返りについて教員がフィードバックを行った	⑯ どちらともいえない いいえ	変更は特にしていない	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	
総合	⑰ 実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成28年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつう、2.やや不十分であった、1.不十分であった。	5 ④ 3 2 1	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。		

※その他、他の授業との接続、発展内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。